明治四十三年十二月十一日第三種郵便物認可（每月一回
明治二十二年二月二十八日內務省許可　廿日發行）

明治四十四年一月二十日發行

婦人衛生雜誌

第二百五十四號

婦人衛生雜誌

第二百五拾四號目次

恭賀新年

併て會員諸氏の健康を祈る

明治四十四年辛亥元旦

私立大日本婦人衛生會

謹賀新禧

新潟支會

山形支會

宇都宮支會

高崎支會

米澤支會

會員募集

最も貴重なる智識を最も單純に意得し得るは本會の特色とす

女子手藝講義錄

壹ケ年修了

少額の費を以て家庭に最も有効なる手藝の最新智識を完全に修得せしむるは本會の講義錄なり講師は斯道の大家なり世界の技術と嶄新の考案を最新式の說明法に依り講述す

共立女子職業學校 櫻友會內 普及會編

會費

普通科		高等科	
壹ケ月（一册）	金參拾錢	壹ケ月（一册）	金參拾五錢
半ケ年（六册）	金壹圓七十錢	半ケ年（六册）	金壹圓九十九錢
壹ケ年（十二册）	金參圓廿四錢	壹ケ年（十二册）	金參圓七十八錢

無代進呈 入會規定 內容見本

社交上精神上家政上の成効を希望する婦女子は速に入會せよ

入會申込所 東京日本橋 大倉書店

電本一四一四番 ● 電本二四〇四番 ● 振替東京二三八番

婦人衛生雜誌第二百五十四號
（明治四十四年一月二十日發行）

講演

生活に就て

醫學士　永井潛

今日御招きを受けまして一場のお話を致しまするとの機會を得ましたのは、非常な光榮と存じます。前に富士川さんの、味のあるお話がありまして其次に私の如き者が罷り出まして、非常に無味なお話を致しますのは、恐入つた次第でありますが、併御馳走の後の一服の御番茶ともなることが出來るだらうかと考へまして、臆面もなく罷出ました次第であります、私のお話し度と考へますのは漠然たる大な題ではありますが、生活の話と云ふことに就て暫時御聽に入れたいと存じます。

此處に一つの小さな礫がありまして、それと同じやうに又此處に一つの牽牛花の種子がある、此二つを同じ處に置きまして、又同じ水を與へて置きますと、一方は變化して來ます、即ち牽牛花の種子に於きましては、何時の間にやら奇麗な雙葉を出しまして其葉から炭酸を吸ひ其中の炭素を取り、又地中の根に依て一定の鹽類を取て、段々と大きくなつて來て遂には花を開き實を結ぶに至るのであります。之に反して礫は同じ所に置き、同じ水を與へましても少しも變化を起すことがない、即ち牽牛花の種子に於きましては、榮養と云ふことが第一にあるのであります、次に成長の現象があり、次に運動と云ふことが見られ、次に生殖と云ふ現象が見られるのであります、何れも是等の現象は、牽牛花の種子に於て見られるのでありますが、礫に於ては、少しも是等を見ることが出來ないのであります。

此世の中にある所の色々なものを斯う云ふ考へから觀察して見ると二つに分けることが出來る、卽ち一は牽牛花の種子のそれの如く榮養、成長、運動、生殖等の色々の作用を現はすものと、他の一つは礫のそれの如く是等の作用を現はさない者とであります。吾々は此の立場から宇宙間にある數限りなき物を生物、無生物なる二つに分けて居るのであります。

生物が表します現象は細に觀察して見ると實に種々雜多である、又實に靈妙不思議であつて、殆ど枚擧するに遑がない程に澤山の事實を數へ立てることが出來る、併ながら之を學問の上から此種々雜多の現象を觀察して見ると、數限りなき現象の中に自から共通なる事柄が行はれて居ることを認めることが出來るのであります。

此事柄を標準と致しまして生活現象と云ふものを、短い內容に括つてしまふことが出來るのであります、其現象とは何であるかと申しますと。

第一は新陳代謝の現象である、苟も物が生きて居る以上は必ず外部から一定の物質を採り又同時に內部に於て作つた、一定の物質を外に捨てゝ居るのである、是が卽ち新陳代謝の現象であります。

第二は、勢力の轉換と申すことであります、卽ち苟も生物が一定の仕事をやり一定の働きをやる以上は必ず其働きをやりますに必要な勢力の源根を仰がなければならぬ、而してそれを何處から仰ぐかと申しまするに、外界から仰いで居る。其關係を申しますると、蒸汽機關の勢力の根源は石炭から仰ぎましてそれを更に熱に換へ更に又器械的作用として外界に現はして居ると同じ關係であります。

第三は、生活して居る以上は其處に形の變化と云ふ事が行れて居るのであります、形態の變更とでも申したらば宜いでせう、卽ち生活物は初から現在ある如く作られた物でない、幾億年の長い年月を經まする間に漸々に變つて來て、今日の如き形を現はして居るのであります、此點に於て生活物と云ふものは系統的發生を遂げた者である、例へば人間の出來上

る迄には長い歴史を以て時々刻々に變化し來つたのである、是は一つの人間と申す種族が成立つた歴史である、それと同時に一つの個體、即ち鳥なら鳥が卵から鳥になるまでの順序、是も一つの發生であります。又一人の人が、成長するまでの順序を見ると、斷えず其形の變化を來して、初めて出來上る者であります、即ち前の種族的發生を名けて、系統的發生と言つて居り、それに對して一個體が出來上る現象を個體發生と言つて居りますが、兎に角生活體である以上は必ず形體の變更と云ふことがあるのであります。

斯く申しますると、以上三つの現象は別々のものであるかの如く考へられますが實はさうでない。既に物質の代謝があると勢力は轉換しなければならぬ、形體も變化しなければならぬ、何故なれば物があれは必ず其所に勢力があるからである、斯く三つの區別を致しますのは、唯一つの生活現象と云ふものを三つの方面から觀察して斯の如くにしたのであります。苟も生活物である以上は必ず以上三つの方面を備へて居る、又どんなに複雜して居る生活現象でありませうとも、吾々は此三つの事柄の下に總てそれを總括することが出來るのである、即ち一番下等な唯一つの細胞であつて生活現象を現はして居るものから、最も高尚な吾々人間の如きものに至るまで、之を現す所の現象を細に觀察して見ると、此三つに外ならぬのであります。斯の如きものを名づけて、吾々は生活現象と稱へ、此生活現象を現はすものを生體と稱へて居るのであります。然らば此の生活現象をば、一體どう云ふふうに說明するか、此事が今日私が申上げたい主眼であります。何となれば此問題は實に大切なる大問題であるからであります。生活現象を如何に說明すべきやと云ふ事は、唯獨り醫學、生物學、社會學などに直接の關係を有つて居るのみならず、事に觸れ物に當り吾々の根本的の考を定めて行く上に於て直接關接に一大影響を有つて居る問題であります、從つて此會の

お努めになつて居る所の衛生と云ふことにも直接間接に關係する所が或は少なかるまいかと考へまして、斯の如き問題を選んだ次第であります。

此生活現象が一體どうして行れるのであるかと云ふことに就きましては、昔から非常に多くの學者、或は其他の人も澤山に考を陳べ又頭を痛めて居る、蓋し生活現象なるものは日々見る所であつて而して吾々に最も直接の關係のあるものでありますから、勢ひしかある可きである。それにも拘らず今日の如き色々の學問の進歩した時代に於ても、尚未だ此生活の現象に對する滿足なる説明は實は出來て居ない。さう云ふ有様でありますから、昔から此生活現象なるものに對して與へられたる説明を、一々繰り返しましたならば際限のない程色々の學説が出て居る、併ながら吾々は此數多い學説を簡單に大別することが出來るのである、即ち一つは所謂活力説、或は生氣説と稱るへ所の學説で、生活の現象と云ふものは活力、或は生氣と云ふべき無機體に見ることの出來ない一種不可思議なる力、此力が源となつて生活の現象を起すものであると主張する。もう一つは機械學説と申したらば宜いでありませうか、生氣説と反對で生活の現象と雖やはり無機體に於ける法則の下に支配されて居るものであるから、吾々は無機體に於て見る所の諸の現象に當嵌めて差支へないものである、それで十分に説明して行くことが出來る者である。更に言葉を換へて申しますれば、物理學或は數學、是等の事柄に依つて得られた智識は之を直に生活現象に應用して此説明を求むる手段とすることが出來ると説く者であります。此二つの考への中で、果してどちらが本當であるかと云ふ事は、非常に困難なる且つ大問題であります、一體人間が生活現象を説明するに不可思議力を採用する樣になつた動機を考へて見まするど、歸する所死と云ふ現象の解決であつたらうと思ふ。是は今日に始つた事ではないので幾億年前に既に人間に兆した所の考へであらうと思ひます、今日に現存して居ります彼

の未開人の生活現象と云ふものはどう云ふ風に說明して居るか、それ等を調べて見ると次に御話するやうな思想を抱いて居るのであります。總て人間の智識が進步しない時は、人間が未だ動物に近いのでありまして、物を感知するのみで考へることが不十分である、目に見、耳に聽き、手に觸れると云ふだけであつてそれを更に頭の中に入れて色々に考を起すと云ふことは不十分であつた。さう云ふ時代には生物に對する觀念はどうであつたらうか、必ずや彼等の、眼に見え、耳に聽へ、手に觸れる者が最も彼等の注意を引いたに違ひない、所で吾々が未だ生きて居る間と死んだ時の狀態の變化は、どう感じられるでありませうか、吾々は生きて居る間は身體の何處に觸れても暖い感がする、又呼吸と云ふことが行れて居る、然るに死すと此呼吸は止つて仕舞い、是迄何所に觸れても明に感じた溫度は全く去つて仕舞ふ。次に感ずるのは心臟である、生きて居る中は胸が動く、此動く所のものが其運動を止める時は卽ち死である。是等の考から致しまして宇宙の間には一種不可思議なる力があり、それが身體に宿つて生活現象の源となると思ふのは、蓋し自然の勢ひであります。言語の起りなどに對して考へて見ても、恐らくさうであつたと云ふことを斷定するに難からずである。例へば御承知の如く外國語スピリットは一種『息』と云ふ言葉である、それが變化致しまして『精神』と云ふ言葉になつて參つたのであります、或は又溫を以て生活現象の源であると云ふ考もあつた。昔の色々の學說の起つた根據を調べて見ると確にさうであります。例へば何か一種の氣が宇宙間に在てそれが溫となつて身體に行渡り、そこで初て生活の現象が成立つと考ふる類であります。要するに死が本となつてそれに依つて、何か一種身體と別のものが身體に宿つて初て生活の現象が成立つと說くので、其宿る所のものは何であるかと云ふと一種不可思議なる力であると云ふ考が人間の頭に兆したのであります。

續いて希臘時代になりまして非常に人間の思考が發達致しまして、此宇宙の成立はどうであるか、宇宙はどう云ふ風に消滅して行くものであるかと云ふやうな大きな問題を捕へて研究した、其結果として遂に種々の現象を機械的に説明することが出來るものであると云ふことの、斷定を下すに至つた。此時代に於て生活現象と云ふことを説明する學説も一轉化を來して生活現象は無生物と同じ規則の下に行はると云ふ學説が現はれて來た次第であります。斯の如くにして一面に於ては非常に古い時から何か一種不可思議なる力を採用して生活現象を説明し、一面に於ては全く之を機械的に、論理的に説明しやうとするの考が、古くから人間の頭の中に兆した所の生活現象に對する學説であつて、其戰は年を經るに從つて夥しくなりまして、今日と雖尚盛んに戰ひつゝあるのであります。併ながら十九世紀になりまして非常に萬有科學が進歩して以來、生活現象なるものを説明する學説は、恰も終を告げたかの如き觀を呈した、それは生活の現象は萬有科學で説明されるので、機械學説が永久の勝利を得たかの如き觀を呈した、卽科學の進歩が生活の現象と云ふことを説明する上に、一段落を來しました、それは今から凡そ八十二年程前、卽ち西曆千八百二十八年に獨逸のウエーラール先生が尿素、尿素と申すと御承知でない方もあるか知れませぬが、吾々の身體の新陳代謝の結果として出來ました彼の尿の中にあります非常に大切な成分でありますが、其の尿素なるものは昔の考へに依ると、生體と云ふ特別の力を具ふる者に於てのみ造られ吾々が人工的にこれを作ることが出來ないものであると考へて居つた、所が八十二年前にウエーラール先生が實驗的に試驗管の中で之を製造した、是は小さなことのやうでありますが、生活現象と云ふ學説の上には非常に大きな、一世紀を劃するやうな發見と言はなければならぬ。何故ならば從來は生活體に於て見る如き力があるにあらざれば出來ないと考へられて居つた抱合物が、端な

く試驗管內で造られるやうになつたからである。其以來はゲーテと云ふ有名な詩人が千古の傑作とまで言はるゝ大著作たるフワウストの中に試驗管の中で人間を造ると云ふ事があつたやうであります。恰も其事が現實にされたかの如き觀がある程、澤山の有機物を試驗管の中で造るやうになりました。生物體で一番大切な成分は、蛋白質でありますが、是はまだ造る事は出來ない。そこで今日では、伯林の有名なる科學者エミール、フイシャーと云ふ人が非常に熱心に之に就て研究して居られます。而して又一面に於て科學の進歩に依つて生體組成分を調べて見ると、やはり無生物體に於けると同じやうな原素から成て居る、即ち炭素であるとか水素であるとか酸素であるとか云ふもので何れも別に變つた物ではない、既に材料が同じである上に其材料から出來上つたものゝ互の化學上の作用と云ふものは亦ウエラー先生の發見以來、種々の實驗の示す所に依ると同一の法則に從ふ者で、さうして見ると材料も同じく又之か同一法則支配の下にあるとしたならば、吾々の身體に於て行れる新陳代謝の現象と云ふものは何も不可思議なる力を採用して説明する必要は認められぬのであります。併ながら尚細に生活の現象を調べて見るとさう簡單に言へないやうな場合が澤山出て來る、例へて申しますると、吾々の身體に於て見らるゝ所の新陳代謝の現象と云ふものは斷えず一方に出來一方に破しつゝあると云ふやうな事柄が果して無機體に出來得られるかどうか、無機界に於ては斯く一方に物を取り、又一方の物を破して出すなど云ふことは一寸見られない、併ながら能く調べて見ると無機體に於てもそれに似たやうな事柄を認めることが出來るのであります。極く簡單な例を御覽に入れる爲に一寸實驗を致します(實驗)これに入れるのが葡萄糖で、之を水に溶し、其に炭酸曹達の極少量を加へまして、葡萄糖を此器に入れる、之を私が暖めますと段々と色が變つて來る先づ青いのが褪めて赤い色になる、更にそれが無色になつてしまいます。

此試驗はどう云ふ事の實驗であるかと申しますと無機體に於ても或一つのものが一方から物を取つては一方に與へ、取つては與へすることの作用が行はれるものであると云ふ極く簡單な例を御目に懸けたのであります。即ち葡萄糖と申しますものは砂糖の一種で極く酸化し易いものである、藍と云ふのは一種の酸化物でありまして之を葡萄糖と一所に致しますと藍の持つて居る酸素を葡萄糖が奪つてしまうやうになりますから初め藍色の者が赤くなり、終に無色の白藍になる、其白藍が空氣に觸れると空氣中から酸素を取つて再び青藍になる又之を暖めますると酸素を砂糖に與へて白藍になる、斯くて、葡萄糖が酸化し盡くされるは何時迄やつても色が附きます。そこで斯樣な作用は無機體に澤山ある、其一方から物を取り一方に與へると云ふのは一定の化學作用で其力が、吾々の生活現象に大切なる新陳代謝の現象であり而して之に匹敵すべき作用が無機界にも見られる。もう一つ不思議であることは單純なる生物例へばアメーバの如きも食物を選擇し、それを消化して滓になつた者を外に捨てると云ふことは、餘程不可思議のことである、何か細胞に一種の精神作用でもあつてするかの如き感が起る一寸此圖に依つて說明しますと（圖及說明略）

所が今日は細胞機械學と云ふ即ち種々の生活現象を機械的に眞似をして其說明を與へると云ふ學問が發達致しましたから、此の一種不可思議の力の助に依つて出來ると考へられて居つた現象も、矢張り無機物で眞似をすることが出來る樣になつた。そこでもう一つ實驗をして見ますが（實驗）先づ水を取りまして、水の中にコロ、ホルムの球を入れる、……

……是は幻燈の機械でもありまするど大變面白いので御座いますが、此處では一寸たゞ實際の所をお目に懸けます、先づシエラックの細き絲……

シエラックと云ふのは、膠の代用をするものです、其のシエッラクの細い絲を取つて、コロ、ホルムの

球に與へますす、さうすると球はアメーバーなどのやうに、段々に絲を已の中に、取込んで仕舞ふのでありますす其關係は丁度アメーバが藻類の絲を取り込むのと同一である斯樣な事からして、生物が外から身體に物を取り入れ之を外に捨つると云ふ現象を說明することが出來る。

次に勢力が身體の中へ出たり入つたりする勢力の轉換と云ふことはどうであるか、此勢力が一定の形で一定の物に入り込んで一定の形に換つて出ると云ふ場合に、無機體に於て見らるゝ非常に大なる萬有科學の基礎を作つて居る事柄は、勢力不滅則と云ふことであります。勢力と云ふものは減ずることが出來ない、又勢力は新に作ることの出來ないものである、勢力が一つの形で入つて他の形に變へられて出ると云ふことは出來る、併ながら勢力と云ふものは其際同じ量を保つて居る。簡單な例を舉げて其事柄を調べて見ると、此處に一つの重い石があつて其石を高い處に上る、上る爲に一定の勢力は費されたかの如き觀を呈するのであるけれども、さうではない、之を高い所に上げた爲に其所にある石は勢力を宿して居る、だから今之を下に落すと丁度高い所に舉げる爲に費された勢力は再び現れて來るので、是は申すまでもない。而して又生物體に於てもやはり無生物體に於けると同じやうに勢力は滅することはないと云ふことが學者の研究によつて明かとなつた。其研究はどうして致したかと申しますと、總て勢力を計りますには何か一定の標準を定めることが必要である、標準を定めると云ふのは、例へば長さを計りますに物指を使ひまして一尺を單位とするとか、或は衡を使ふのに一匁を單位とすると云ふやうに、どれだけの勢力が出たかと云ふやうなことを量るのに、學者はカロリー即ち熱と云ふものを單位として此勢力を量ることになりました。何故熱を單位としたかと云ふと、いろ〳〵勢力も皆熱に變り得るものであるからである、隨つて勢力を量るは最も便利である、どれだけの熱の量を勢力の單位とするかと云ふと水

の一キログラム、即ち五合五勺を攝氏の一度位高める溫度、それを一カロリー、即ち勢力を量る單位として居る。それから又吾々が取り込む所の勢力はどれだけあらうかと云ふことを調べる爲に吾々の食物の現はす熱を量るのである。之を量る爲に熱量計と云ふものを使用するのであります、之に依つて吾々の食物から取る勢力はどれだけのカロリーがあるかと云ふことを調べましたら吾々の取る食物の勢力は凡そ次の如きものであることが分る、それは蛋白質及び含水炭素の一瓦が各四・一カロリーの勢力を有つて居る、脂肪の一瓦は九・三カロリーで、前二者よりも二倍以上勢力を出すものであることが分つたのであります。そこで又此事が分つて以來動物か攝取した一定量の食物中に脂肪が幾ら含水炭素及蛋白質が幾らと云ふ分析を知つて置けば直ちに計算によつて該食物中に幾カロリーの勢力を含んで居るかゞ明である又一面には該動物が其際體成分を壞して出した所の勢力を前と同じ原則の下に熱として量りまして、斯くて一面には體成分を壞すことに依つて出すべき所の勢力を計算し一面に於ては其際動物が食物として攝取した所の勢力の量を測定表に書きました。(表略す)

斯くして動物體に於ける勢力の收入支出を檢べて見ると勢力の轉換と云ふことも、無機體に於けると同じ規則の下に行はれて居ると云ふ結論に到著するのであります。尙一つ近頃發達して來ました細胞機械學と云ふ見地から研究した結果に依ると、所謂原形質に於て見らるゝ、原形質運動はやはり之を機械的に眞似をし得る樣になつて參りました、今此試驗を致します。此の原形質運動は極く下等な、アメーバーと云ふやうなものに見らるゝ者であります。

(實驗)　先づ硝酸を此中に入れて、又其中に水銀を少し垂して水銀の球を作る、之に重クロム酸加里を入れると此水銀が自然にアメーバの樣に動き出します。

斯の如くにして生活現象の一大方面たる勢力の轉

換と云ふ現象は、無機體に於けると同一の法則の下に行はれるもので、理化學的に之を說明することが出來るものであると主張されるやうになつて參つたのであります。

第三の方面に於ては、生物が成立つて發達した事柄は、昔からの說明は一種不可思議の力があつて、其力に依つて生物體が成立つたと云ふ風に考へて居つた、けれども其考へも全く誤りであつて、學問が進步致しまして、理論的に吾々の考へ得る原因があつて、其原因の下に生物と云ふものが出來ると云ふ事が分るやうになつた、例へば生物が一つの卵から發育するのを見ると、僅々の間に非常に複雜なる作用を、少しも間違なく順序正しく行ふと云ふのは餘程不可思議である。是は所謂形を作る所の一種不可思議な生活力があつて、それに依つて初めて出來るものと昔は考へて居つたのであるが、今日進化論が成立ちました結果說明が附く樣になつた例へば人間なら人間が卵から出來るには、人間の祖先が幾億年の間に進化し來つた事柄を、吾々一人の者が卵から段々と大人になる迄の間に簡單に省略して繰り返して居るのであると云ふとが分つて以來、不可思議な力を假て說明するの必要はなくなつたのであります斯の如く學問の進步の結果と致しまして、生活現象と云ふ複雜極まることをも物理化學によりて、說明することが出來ると云ふ學說が立派な根據を得るやうになつたのである。此事は吾々醫學を研究して居る者に非常に大切なことであるのみならず、苟も生活問題と云ふことを、調べる人の寸時も忘れることの出來ない根本的の問題であると思ふのであります。併ながら是まで申した事柄は吾々が外から觀察することの出來る生活現象であつて、精神と云ふやうな內的問題になりますと別である、精神と身體とは密接の關係を持つて居るが精神の方は最早純物理化學で說明する譯に行かない是は又別の考へを以て觀察しなければならぬのであります。

今日は唯吾々が日常觀察する所の生活現象なるものは、何處迄も科學的に解釋すべき者で不思議な力があるなどゝ云ふ疑を挿んではならぬと云ふことを申上たい爲茲に能出た次第であります。

叢談

衣服の衛生

人は何れも裸で生れて參つたのですが、只今では生落ちると直ぐ襁褓に纏はれて、特別の場合の外は、殆ど一生衣服を身に著けて居ります、尤も只今でも野蠻人、特に熱い處の人間は裸體で居る、何處の人間も其初めは皆裸で居つた時代があつたに相違ありません、それが幾千年と云ふ間に種々の事情から、衣服と云ふものを發明して、實際上の必要、卽ち身體の保護について、實用上に事缺けぬ迄に至りますと、今度は精神上より美術的に、其他複雜なる關係から衣服は裝飾用の物となり、禮儀を表する物となり、其意義はなか〳〵廣いものとなりまして、之を人類學とか文明史とか云ふ方面から論じますと、餘程面白いものでありますが、此處には主として衛生上の見地からお話を致す考であります、從つて餘り面白いと云ふ譯には參りません。

一體衣服は、身體の保護、就中皮膚の保護と云ふことが第一の實用上の目的でありますが、如何に之を保護するのかと申しますと先づ皮膚の如何なるものであるかを考へなければなりません。皮膚は御承知の通り身體の全面を被ふて居りまして、恰度ゴムなどの樣に彈力がありて、伸縮をする、それで外から物が來て打當る場合には、それに抵抗して之を跳反す力があります。又皮膚には殆ど到る處に神經と血管が通つて居りますので、能く熱い寒いが分かり、痛い痒いを感じ、尙ほ脂を出す腺管や汗を出す腺管が具はつて居りまして、皮膚を滑かにし、身體の熱を程好く調節し、又幾分呼吸作用も營むで居ります。扨て右の如き皮膚に向て、外から加はる所の刺戟は如何なるものかと申しますと、第一に寒熱、卽ち溫

度の高低が刺戟となり、又光線、電氣、藥品などに由る化學的の刺戟、それから打撲、衝突等の器械的刺戟、其他寄生物、細菌、又昆蟲類の螫刺等が外から皮膚を侵す所のものであります。

元來皮膚は、能く此等の刺戟に堪へ、身體内部に害を及ぼさぬやうに、外から來る危害を防禦する作用がある、即ちこれが皮膚本來の役目でありますから通常は裸で居つても差支がない。太古は、實際裸で居つたに相違ありません。けれども既に鳥や獸の如く、羽毛も無く、毛皮も無い今日の人間の樣な皮膚では、幾ら外來の刺戟に堪へ得る作用があつても稍ゝ甚しい寒氣に逢へば、平氣では居られません、遂に凍傷に罹り或は凍死するに至るてありませう。そこで、絶えず焚火をして暖を取るとか、然なくば獸の皮を剝いで著る、又は鳥類の羽毛、或は木の葉の樣な物を綴り合はせて肌を被ふことになる、是やがて衣服なのであります。暑さも此と同じく、夏は裸でも濟むから結構だと申しますが、これは家あり衣あつての上の洒落で、實際炎天に一日曝されたならば、單に所謂日に燒ける位では濟みません、皮膚に炎症を起し、種々の害を招きます、そこで樹陰に憩ふとか、少なくとも蓮の葉或は蕗の葉のやうな大きな草の葉でも被ぶつて炎熱を凌がなければなりません、是やかで衣服であります。斯樣にして晝の暑さは凌ぎませうが、さて夜になつたら何うでありませう、幾百萬の蚊軍が襲擊して、所嫌はず皮膚を刺す、其他蚤、虻、蚋等の昆蟲類は無論のこと、蛇、百足の如きものまで皮膚を侵す、二本の手を以て之を防ぐは、なか〳〵容易のことでない。こゝから家屋の必要が起り、衣服の發明となるのであります。

斯の如く、衣服を發明するに至る原因、其需用とする所を考へて見ますと、衣服の實際上の效用並に目的が能く分かる、其の效用を遺憾なく發揮して、人體の生理に悖らぬやうに、健康を保持するに適當なる衣服は、如何なる性質のものであるかと云ふやうな事を研究するのが衣服の衛生で、之には如何なる

ことを調べるかと云ふに主として衣服の材料と爲る織物の性質、其他衣服の種類に依て衛生上如何なる得失があるかと云ふやうな事を論ずるのであります。

通常衣服の材料としては、先づ綿、麻、絹、毛を原料として作つた纖維を經緯にして織出した綿布、麻布、絹布及び毛織物、或は此等の原料を二三取交へて織出した物であります。

木綿は印度、亞弗利加、亞米利加の暖國に生ずる植物でありますが、支那や日本でも多少出來ます、此植物の實を包んで居る所の白い毛の樣なものが卽ち綿で、これを絲にして織つたのが綿布であります。綿布はその纖維が粗いので、比較的澤山の空氣を含みますから、熱を引くことが少い、從つて割合に能く體溫を保つことが出來るものであります。綿布は外見こそ餘り美しくないが、値段が安く、裁縫し易く、洗濯にも便利で、毛織物よりは刺戟弱く、絹布よりは溫を能く保ちますから、普通の衣服としては最も適當な物と申さなければなりません。

麻は綿と反對で、露西亞とか北海道のやうな寒國に能く生長する所の亞麻から採つたものでありまして、卽ち亞麻の皮の下にある纖維を製して麻絲に紡むぎ、之を織つたものが麻布であります。麻布は濕氣も溫も保つ力が無い、それで善く體溫を放散し、皮膚より蒸發する水分の發散を妨げませんから、夏時の衣服としては、これに越したものは無いので、清潔でもあり又實際涼しいのであります。

絹は、蠶が作つた所の繭を煮て生絲に取り、そのまゝ或は之を練りて絹布に織るのですが、絹布は輕く柔かく、且つ光澤があつて美麗なる點が貴ばれるのでありますけれども、體溫を保つことは木綿に劣り、水分を發散することは麻布よりも惡いのであります。

毛織物は、主として羊、又駱駝、兎などの毛を以て造られまして、多量に空氣を含むで居りますから、體溫を保つと云ふ點に至ては第一等の衣服材料であります。又能く水を彈きますから、防寒用又は雨衣

には至極適當ですけれども、その濕氣と塵埃を吸ふ量も多いので、此點は衛生上大に注意しなければなりません。又皮膚を刺戟することが甚しいから、とても襯衣には出來ません。

以上申述べた所に依て見ますと、何れの衣服材料も一長一短、一得一失あつて、一概に何れが一番良いとは申されません。各々、衣服の種類、季節又經濟上の點からも考へて取捨選擇しなければならん譯であります。

温い爲には、第一毛織、次に木綿、絹、麻の順序で、涼しい方から云へば、之と反對と云ふ順序になりますが、綿入に仕立てますと、木綿や絹布でも毛織に劣らぬ程暖い。又厚い著物一枚よりも、薄い著物を幾枚も重ねた方が暖い。洋服よりも和服が暖かい凡て皮膚と衣服の間に多く空氣を含めば暖いことになります。

直接肌に觸れる所の襯衣は、刺戟が少なく、洗濯に便利な物を選まなければなりません、從て木綿、子ルなどが最も宜いことになります。但し多少保温と云ふことをも考へ、又老人などに幾分皮膚の刺戟を要するやうなこともありますから、其時期に依つて綿やメリヤスなどの適當な場合もありませう。

概して保温力が大になるに從つて、濕氣を吸收する力も、塵埃を吸込むことも多くなりますから、毛織物は常に能く乾燥して、塵埃を拂ふことを怠つてはなりません、若しこの始末が惡い時には、單に衣服の保存上宜しくないばかりでなく、臭氣を發するやうになり、衛生上極めて有害であります。次に衣服を著用する上に於て衛生上注意すべき事項を二ッ三ッ擧げますれば

第一、襯衣は屢々交換へて、垢著かぬものを著よ

第二、衣類は塵埃を拂ひ、時に洗濯せよ

第三、濕りたる衣服は直ちに脫換へて、十分に乾し燥かせ

第四、衣服は緩やかに纏ふて、緊しくしむること勿れ

第五、厚著すること勿れ、薄著も宜しからず
第六、衣服を脱換ふる時注意せよ、感冒に罹り易し

斯く竝べ立てゝ見れば、言はずもがなの誰も知つて居ることばかりである、知つては居るが行へないのは古來人の通弊であります。

空氣問答

その一　空氣の廣がり

飲食は一兩日位は斷絶しても死なないが、二三十分間空氣がなければ、何んな強い人でも屹度死ぬ、辨慶でも加藤清正でも、ナポレオンでも、ニウトンでも、常陸山でも、蟇仙でも必ず請合つて往生します。唯人間が死ぬ計りではない、全く空氣のない所では、高等の動物は大概皆死んで仕舞ふ。

燃燒といふ事も、空氣のない所では殆んど全く行はれ得ぬ、其結果御飯も炊けなければ、御湯も沸せない、夜は眞暗で、冬はやたら、寒い事になる。

左程大切な空氣は抑も何處に、何れ位あつて、何う云ふ性質の者で、何ういふ變化をするか、その衞生上に及ぼす利害は何うか、と云ふ事を、極く手短かに御話致しませう。

第一、空氣は世界中何處にでも存在する者でない、天文學者の說に依りますと、世界には千萬無數の星があつて、之が皆宇宙を彷徨つて居る、平常に夜見る星は多くは各一つの太陽で、御日樣の太陽は、吾々の地球に極近い一つの、星に過ぎないと云ふ事です。そうして太陰、即ち月は、更に近く、又甚小い一つの星だそうです。吾々の往んで居る地球も亦、月よりは頗る大きく、太陽よりは甚小い星の一つで、矢張り同樣に、斷えず宇宙を彷徨ひ回つてゐて、太陽のぐるりに、繰返し大きい輪を書いて居るのだそうです。

極の無い宇宙——限りなく廣い世界に、一杯に空氣が在るかと申すと、そうでは無い。千萬無可計數の星や、太陽やに、地球上と同樣な空氣が在るかと云

ふと、多くは此處にもない、空氣は唯地球の玉の上面の、少し計り離れた所までに存在する而已であります。

地球は周圍一萬里、直徑三千里の球である、而して其表面に海があり、陸があり、山があり、川が有り、木が生え、人が住む、此表面から、(明瞭は判りませぬが、大凡直上、一百里、乃至二百里位の間を八方に空氣が取卷て居るのです。そうして此空氣が、地球の運行に連れて、地球と共に宇宙を廻り歩行くのです、丁度木犀の木の四方五六間のあひだは、木犀の匂がして、木犀を持つてあるけば、其芳香のする範圍も之に連れて動くのと同じ樣な具合です

地球の直徑は三千里あつて、しかも南北の方向に少し平べつたく成つて居る、例へて云はゞ夏蜜柑の樣な形である、そうして其周圍に、二百里内外の厚さの、空氣の皮が被さつて居る。故に地球を蜜柑の實に例へますと、空氣の厚さの割合は、大概夏蜜柑の皮位と考へて、大きな間違は有りません。即限り無く廣い宇宙の中に、たつた夏蜜柑の皮大の、空氣層が存在する計りである、此氣層の中で、風も吹けば、雨も降る、『天の海に雲の波立ち、月の船、星の林にこぎ隱る見ゆ』と詠んだ、其雲の波も起れば、『天地を西と東に截ち別けて、七夕つ女の虹の織布く』と詠んだ、(之は僕が詠んだのです)其五彩の虹も湧くのです、世人が普通にいふ大空の中の樣々な變化、詩人が喜んで歌ふ麗しい天の姿も、其大部分は實際は此地球を離れない、割に狹い空氣層中に起る事柄です、空氣の外の宇宙、即所謂虛空は之が全くの眞空であつて、之から何十萬里、何百萬里、何億萬里の遠くにある、種々の天體、則、月、太陽、星に到るまでは、何も無いと云つてから無いのであります、但し天體の極く傍まで行けば、又夫々の天體の空氣が存在する、併し此空氣は、地球上の空氣と甚だ性質の異つた者なる事は、大凡證明せられて居るのです、例へば地球上の空氣は、酸素と窒素瓦斯との混合であるのに、太陽の空氣は、多くは

水素瓦斯、ヘリウム瓦斯等より成る

試みに二三の數字的の大さを擧げて見ますと

地球の半徑約千五百里　月の半徑約四百里

太陽の半徑、約十七萬七千里。(地球の半徑の百十倍程)

月と地球との距離、約九萬八千里

太陽と地球との距離約三千八百萬里

星と地球との距離、光線の速度は非常に大きな者であつて、一秒に約七萬六千里を行く、即一年には凡二萬五千億里餘丈あるく事になりました。一番近い恒星でも、其星から、光が地球まで來るのには四年半計りかゝるそうです、最遠い者になると、數千年以上も費さなければ、光でも來れない。即今日私共が眼に見る星の光は、其實數千年前に輝いた光であつて、今日星から出る輝は、又數千年後でなければ地球まで來ない譯となる、即之等の星は、殆んど無限大の遠方に在ると、考へても差支いないのです

話が大分横道へそれましたが、之で大體空氣の存在する廣さと、その宇宙の關係とが、御分りになつたらうと思ひますから、次には空氣の成分へ移ります。

その二、空氣の成分

前に一寸申上げました樣に、空氣の成分として常に存在する者は、窒素及び酸素の兩瓦斯で、其の混合の割合は、大凡五と一との比であります。此外にまたアルゴンと云ふ瓦斯が、甚少し乍ら、何時でも空氣中に含まれる。そうして此等の瓦斯の容積の比は、何處の空氣を、何時取つて來て試驗して見ても、山間の者でも、海上の者でも、王公の殿堂の中のでも、私共の勝手口の空氣でも、朝でも、晩でも、常に一定不變の者です。百分比例でかいて見ますと純粹の空氣百分は

窒素	七八・〇六分
酸素	二一・〇〇分
アルゴン	〇・九四分

此外まだ、必ず空氣中に含まれて居ながら、然も時

と所とに依つて、其分量の多少が大に變るので、學者から空氣の常成分と認められない、――不定成分――云はゞ御客分と見做されて居る者は、卽炭酸瓦斯と、水蒸氣とであります、一定の者は其人類に及ぼす影響も一定して居る。故に過去幾千年の間に、人類は之に馴れて來て、今では其爲に大きな害を受けない、併し時につれ、場所に依つて變る者では、其人類に及ぼす作用も、亦時所に依つて差がなければならぬ。若し吾人が、祖先以來割合に馴れて居ない程空氣中の水蒸氣や炭酸瓦斯の量が、或は殖え、或は減る樣な場合には、隨分大きい利害を吾人の心身に受ける事も生ずる。故にむしろ酸素、窒素の爲よりも、空氣中の炭酸瓦斯、水蒸氣の增減の爲に來る、衞生上の影響が注意しなければ無らないのです、勿論普通の空氣で、其成分は餘り變化せず共、或は其運動（卽風）の具合に著しい變化があるとか、其溫度に著しい變化があるとかすれば、衞生上多少の利害が伴ふのは、矢張同樣の理由で明な事でしやう。

炭酸瓦斯は、百分の空氣中、約〇・〇〇三、乃至〇・〇〇四

水蒸氣は空氣、溫度により、又季節や風の向に依つて大にその含量が變つて來ます。之等の外に、極めて微量にある空氣の定成分、並びに不定成分として、數種類の瓦斯體がありますが、之等は事が餘り專門に涉りますから、名前も略して、御免を蒙むる事に致します。

又稀に空氣中に交ぢつて來る有毒瓦斯の爲に、生物が種々の害を受ける事もありますが、之は就中重要な事丈をあとで二つ三つ御話する事に致しましやう。斯樣な有毒瓦斯の主なる者は

二酸化硫黃瓦斯
アンモニア瓦斯
硫化水素　瓦斯

位な者であります。

その三　窒素及び酸素

第一窒素、窒素は甚のろまな瓦斯で、一番澤山、空

氣中にあるけれ共、直接には吾人に益もなければ害もない、云はゞ頗る猛烈な酸素の作用を、唯緩和する丈の役をつとめて居る者です

第二酸素、之は空氣中の最必要な者で、空氣中で動物が呼吸をして生きて行かれるのも、空氣中で色々な者が燃えるのも、小刀や庖丁が銹るのも、凡て此酸素があるからです。蚯蚓や土鼠か土中で生きて居るのも、土塊の間に滲み込んだ空氣即酸素の爲で、水中の魚が死なずに居るのも、水に溶けた僅小の空氣中に、酸素瓦斯が含まれて居るからです。(砂糖や鹽の樣な固體が水に溶け、又アルコールやリスリンの樣な液體が水に溶ける樣に、瓦斯體も其多少はあれ、矢張同樣に水に溶ける者です。殊にあとで一寸御話をする、アンモニア瓦斯の如きは甚澤山に水に溶けます。御湯をガラスの土罎か、フラスコに入れて、沸かさうとすると、初めの内、まだ些しも煮え立たない先に、小さい泡が幾つも上つて來る、之れは水中に溶けてをつた空氣や、炭酸瓦斯が第一に逃出すのです。又ラムネやビールの泡も、之に無理に溶かしてあつた、澤山の炭酸瓦斯が、栓が取れると同時に、一時に逃げ出すのです。

三寸の呼吸遠く去りて、六尺の形骸空しく土に委す、朝は二八紅顏の身夕は一片北邙の煙、南無阿彌陀佛、々々々々々々などと申しまして、まさか氣息が三寸の譯では有りませんが、兎も角息氣が止まれば人間はすぐ死ぬ。この呼吸と申す事は、御承知でもありませうが、空氣中から酸素を吸入れて、之を身體の榮養分の一として、其外に、排泄物たる炭酸瓦斯を呼出す事です。だから吸込む氣息は、普通の空氣であるけれ共、呼出す氣息は、割合に酸素が少なくて、窒素の分量には變化がなくて、炭酸瓦斯多は混合氣體です、人間は何も食はずに居れば、大概三日間位の内に死んで仕舞ふ、些も呼吸をせずに居れば、數分を出でずして倒れるです。之を見ても空氣即酸素の大切な事が考へられるでしやう。取も直さず酸素は人間の最必要な食物の一つです。

その四　炭酸瓦斯

第三、炭酸瓦斯。之は人間には頗る有害な者である。人類や動物が、凡て酸素を吸つて、炭酸瓦斯を吐出すのは、食物を取入れて尿糞を出すのと、全く同様の作用で、糞尿が人間には大毒である如く、炭酸瓦斯も亦頗る付の有毒瓦斯の一つです。夫ならばビールやラムネは飲んではならぬかと云ふ様な、疑問が當然出るでしやうが、之は又少し様子が違ふ。御醬油が眼に付くと大そうしみる、併し乍ら御茶椀へには一日も無くてはなりません。之はつまり眼の結膜や角膜は、鹽氣に由つては直痛められるが、胃腸の粘膜は何とも無いのです。同じ様に多量に肺に入れば毒となる炭酸瓦斯も、胃腸では割に害を爲さぬ、のみか場合に由つては、消化を助ける效がある位であります。

か様な特別の場合もありますが、一般には炭酸瓦斯が、餘り澤山に空氣中にあると、人體に害を及ぼす、則百分中に凡そ〇・〇一、乃至〇・〇五位から以上ありますと、人は頭痛が仕出す、目がまわる、嘔氣がする、呼吸困難を感ずる、甚しくなれば（百分中六七以上）遂には卒倒もし、死んでしまう事もあります。

炭酸瓦斯がどうして或場合には、空氣中に多くあり、又或時は少くあるか、又抑その初めはどうして出來て、空氣の中へ交り込んだ者かと申しますと、勿論人間が澤山にビールや、ラムネの栓を拔くからではありません、之等の分量は、二百里からの厚さの空氣に較ぶれば、殆どゼロと云つても良い位僅な者ですから、之は勘定に入れなくつても宜しいですが、最も多く炭酸瓦斯が出來るのは、動物の呼吸と、物の燃燒作用との時です。則凡ての動物が炭酸瓦斯を吐出す外に、又大概の物が燃える時には、盛んに此炭酸瓦斯が出來るのです。

こう云ふ風に炭酸瓦斯が出來る計りで、之が些も減ると云ふ事が無ければ、地球上の空氣は惡くなる計りである、夫では開闢以來から今日頃までには迚

も人間が生きて居られない位になつて居る筈ですがそこには又造化の妙と云ふ者がありまして、同じ生物の中では、草木は、空氣中から炭酸瓦斯を吸つては、酸素を吐出す。植物の食物となる炭酸瓦斯の量と、動物や、人間が造る炭酸瓦斯の量とが、大概いつも平均するので以て、地球上の空氣は、何時も大抵一様な、無害な者となつて居るのです。

窓を開けて新鮮な空氣を入れると大變心持が良い。之は外の理由もありますが、外界の草木の爲に、再び清淨になつた空氣と、室内の呼吸の爲に汚れた空氣とが、互に交換するのが其最大なる原因です。

日曜日に植物園へ行けば大變愉快である。併し之も唯花の紅や、葉の綠や、木立の眺や、泉水の漣や、漣の下の藻がくれに、遊び戯るゝ緋鯉や、但しは花よりも美しい淑女、若木よりも優しく、男々しい大和壯夫が、隨所に見られる計りではない、千々の草木の爲に、限なく清鮮になつた空氣を呼吸するのが、朝晩、都の幾百萬の人の呼吸、幾千幾萬の煙筒の故に頗る不潔になつた空氣中に、生活して居た吾人の身心を、不知不識の間に洗ひ滌いでくれるからです

夫れならば都の空氣は、次第に汚くなる計りで、山林の空氣には直に炭酸瓦斯が無くなりはしないか云ふ疑が出る、併しこゝも亦有難い事には、空氣が非常に混り易い性質の者である事と、赤い水と唯の水とをそつと一つの器に入れると、初めは兩方交らずに居るが、者の一時とも立たぬ内に、兩方共すつかり入れ混つて仕まふ。空氣は又水よりも、何十倍も、何百倍も互に交り易いです。夫れからもう一つは、始終多小の風がある事とで、比較的澤山に炭酸瓦斯を造る都會の空氣も、又澤山に之を吸ふ山野の空氣も、その成分が何時も餘り違いない樣になつて居るのです併し都門の空氣が幾分か山野の空氣より良くないのは勿論の事です又いくら交り易い空氣でも、全く立て切つてあると、どうしても混和が不十分になる。だから狹い部室に多人數居る所、例へば學校とか、電車の中などでは、時々窓を明けて、外から

風を入れる必要があるのです、殊に夜分六疊の部屋で、三人も四人も寢る時には、障子の隅を一所五分か一寸も開けて置くのは、大に益のある事だらうと思ひます。若し部屋の中が氣息の爲に臭くなる則所謂人臭くなつた時は、早速窓か、障子をば暫く開けるのが、衛生上肝心です。日露戰爭の頃あちらで、支那人の家で漸に大勢の兵士がねた、所が支那家屋の作りは、日本の戸障子造りと違つて、實際風も漏らさぬ程綿密な仕掛　まあ西洋造りのもつとひどい者でしやう　に出來て居るので、皆が自分の吐出した炭酸瓦斯の爲に次第に醉つて、さう／＼朝見たらすつかり死んで居た相です。

序に一寸申して置きますが、草木が炭酸瓦斯を吸收するのは、みんな日中の事丈で、夜分になると、極少し乍ら、植物も動物同樣炭酸瓦斯を吐く。ですから夜は夏でも雨戸は餘り開けない樣に、又餘り大きな盆栽などは、室内に置かない方が良い位です、俗に夜道は毒だ、夜露は毒だと申しますのは、一部は此反對な草木の呼吸作用に、因くのだらうと思はれます。

餘り長くなりましたから、空氣中の小蒸氣などは又此次に御話致します。

鼻の話（承前）

腦と鼻と

も亦互に密接な關係を有して居ります、我國では鼻汁は腦から出てくるものであるといふ樣な考をもつて居りました其れは全く根のない事でありますが鼻腔の天井で兩眼窩の間にある所の骨板は澤山の小孔をもつて居りまして、丁度篩の目の樣になつて居ります、此骨板の上は卽腦のある所でありますから、腦と鼻腔とは相交通し得るのであります、それですから

腦膜炎

其他の種々の腦の病氣が鼻の病氣より續發する事は

少くありません、殊にストリユンペルといふ内科學者は流行性腦脊髓膜炎を起す黴菌は鼻より腦に入るものであると申して居ります、此の流行性腦脊髓膜炎と申します病氣は二三年來我國にも流行致しまして、可なり多數の犧牲を出して居ります、突然發熱と共に項及脊に激痛を發し、遂には精神朦朧として周圍を辨ずる能はざるに至りて鬼籍に登る恐しき傳染病であります。

此外に鼻の病氣は間接に腦の働きを害します

鼻の病氣は殆ど常に頭痛を起します、皆さんも少く風邪氣の時には鼻がつまつて頭が重く次第〱に頭痛が加はつて來る事は御經驗の事で御座いませう、又頭痛に苦んで居つた人が鼻の療治の後全治した例も御聞きになつた事が御座いませう、鼻のつまるつまらぬに論なく、鼻の病氣は一般に頭痛の原因を致します、痛む場所は種々でありまして、或は前額或は後頭、或は左又は右の半分、或は全體或は一局部等が痛みます、其の痛み方も絶え間なく痛むものもありますし、又時を定めて發作的に痛むこともあります。

頭痛が甚しくなつて來ますると、何事をなすのも厭はしくなり、終日爲す事なく其日を暮し、人と談話する事も欲せず、從つて憂鬱となり、世を果敢なみ、精神は興奮し易くなりまして、高度の神經衰弱症に陷ります、斯樣な患者は多くは内科醫の診察のみをうけ、其の服藥を以て滿足して居りますから、なか〱全治致しません、假令神經衰弱のはげしき徴候はなくなりました所で、原因は依然として殘つて居るのでありますから、幾何もなくして再發するは當然であります。

記憶障碍

は既に度々申しました通りに、鼻の病氣にはつき物でありまして、これは頭を使ふ學生には大敵であります、殊に肥厚性鼻炎は甚しく記憶障碍を起すもので度の強きものにては、勉強が出來ぬ所か、日常の事を忘れ易く、恰も痴呆の如き狀を呈するものがあ

ります。

鼻の病氣は又癲癇

の原因となる事がある事は、數年來確められた所の事實であります、數年の間癲癇發作を起すによりて脳ませされた患者が鼻の療治をなした後に其發作がなくなつて、全く健康となつた人が澤山あります、又之に反して此迄癲癇を起した事のない人が鼻の中の手術をなせる際突然癲癇を起して、倒れた例もあります、癲癇の如き甚しいものでなく、輕い脳貧血は屢〻鼻の手術の時に起るものであります、神經質の人にては、唯鼻の中の粘膜に物を觸れた丈けで脳貧血を起す事もあります。

喘息

は其の原因の未だ知られてない病氣で或は肺の病氣なのもあり、或は氣管の病氣の人もあります、又呼吸器には少しも惡るい所がなくて起るものであります、之れは一種の神經病であつてよく遺傳するものとされて居ります、所が此の神經病であると見られて居るものの中で、鼻の病氣が原因をなして居るものがありまして、鼻内の手術によりて年來の疾病が烟の如く消失する事があります、其故、喘息患者は一方は内科醫の治療を受くると同時に他方に於ては鼻科醫の診察をうけ、若し病氣があつたならば、其治療を受く可きであります、併し鼻の手術は必ずしも喘息を全治するものではありません時として其の手術も何等の效を有せぬ事があります。

鼻の養生

鼻は美貌上並びに健康を保つ上に斯の如く大なる關係をもつて居るものでありますからして、其病氣になつたならば專門家の治療を受けねばなりませんが、それより先きに其の病氣になる事を豫防する事が肝心であります、其れで鼻を健康に保つ上に最も必要な事は

感冒

にかゝらぬといふ事であります、感冒は總ての病氣の原因となるものでありますが殊に鼻の病氣は八九

分迄は風邪より起るのであります、鼻のつまる病氣も、鼻の腐くなる病氣も、膿の蓄積する病氣も、又アデノイド增殖症も其近い原因は皆感冐であります、風邪にかゝつた時に鼻汁が澤山出ますが其鼻汁は始め水樣でありまして、後には膿の樣に濃くなります、之れは鼻の粘膜が一時的の病氣になつたのでありまして、多くは數日のうちに治りますが、之れが長く癒らなくて居るか或は度々反復する時は鼻の粘膜は或は厚くなりまして肥厚性鼻炎となり、或はうすくなりまして痩削性鼻炎となります、又其の病氣が副鼻腔に迄廣がりますれば其の中に膿がたまつて蓄膿症となるのであります。

アデノイド增殖症なども度々感冐にかゝる小供に發生するものであります。

でありますから鼻の病氣にかゝらぬ樣にするには風をひかぬ樣にする事が大切なのであります。

　　感冐の原因

に就きましては、今も猶學者間に種々の說がありまして、一定致しませんが、其れは寒さばかりで起るものでなく、寒さに一種の微菌が加はつて病氣となるものである事は最早や疑もないのであります、ナンゼンといふ人は南極を探檢した際に隨分甚しい寒さを冐かして居りますが、其一行の人で一人も風をひいたものがなかつたと申して居ります、此れは南北兩極の寒い所では風邪を起す微菌が少い爲めであります、吾人の住して居る温帶では此の微菌は盛に發育して居りますが、少し寒い風にあたり、又は濕氣にあふ時は、其所の血液循環が害されますから、微菌は其所より體内に入り風邪となるのであります。

所で風邪の微菌は如何なものであるか未だ誰も確めた事がありません、併し鼻や咽には澤山の微菌が生活して居りますから其等の何れかゞ體内に入りて病氣の原因となるだろうと思はれます、兎に角風邪の原因は一種の微菌である事は疑もない事で從つて其れが人から人へ傳染する事は少しも不思議な事では

ありません、即ち風邪は腸窒扶斯、猩紅熱等と同様に一種の傳染病であります。

風をひかぬ様にする

には先づ其の身體が寒さにまけぬ様にする事が第一であります、傳染病とは申しますが、外のものと異なり其の病毒は何所にでもありますから、其れが體中に入らぬ様にするには、寒さにあたらぬ様にするか、又は寒さに會ふても身體が冒されぬ様に强壯にする事が必要なのであります、所が寒さに會ぬ、濕氣にあはぬといふ様な事は、深宮の人ならでは出來ぬ事でありまして、かくては極めて羸弱な身となり終りますから、此れは出來ません、最も宜しいのは寒中濕氣に對しての

身體の抵抗

をます事であります、其の身體の抵抗力をます方法は種々あります、野蠻の人は年中暑い時も寒い時も裸體で居りますが別に感冒にかゝりません、これは抵抗が强いからであります、故に人の身體はなる可く寒暑に多くさらさるゝ方が抵抗が强くなるのであります、此理からして

冷水浴

は身體を强壯し、體力を增に屈竟の方法であります、一日に一回或は二回全身に冷水を浴びあとは直ぐ乾いた布片にて丁寧に水を、拭ひ取るか、或は更に冷水に漬した手布にて全身を暖くなる程摩擦した後乾いた布片で、拭き取るのであります
其の水を浴びた時は慄へる程寒く感じましても、後には快き暖かさと代りまして、冬の日と雖ども寒さを忘れます、此の冷水浴は夏冬を通して規則正しく行はなければ效がありません、却て有害な事もあります、元來身體の弱い人には始めは微溫湯を用ひ、漸々其の湯の溫度を抵くして、數日或は數月の後に全く冷水とする方が安全であります。
足の冷える人は風邪に罹り易いものでありますから、人は常に足袋股引等を用ゐて足の冷えるのを防ぐ事が必要であります、猶足の冷える事甚しき時は

椅子に腰かけ數分間足丈けを冷水の中へ入れて彼方此方に動かす時は暫くして足が暖かになるを覺えます、併し身體の弱い人は唯足をぶら〳〵動かした後酒精にひたした綿にて足を擦り、後水中に入るゝ方が宜しいのであります。

煙草及酒

は鼻の病氣の原因となります殊に酒は鼻に害あるものでありまして酒に醉ふ時は鼻の粘膜ははれまして鼻の通りが惡るくなります、醉漢が鼾聲を發するは鼻がつまる爲めであります

そればかりでなく大酒家の子は多く風引き易い性質をもつて居ります、又先に申しました赤鼻は大酒家に多く見るものであります。

鼻を洗ふ事

近來水浴法の盛なると共に鼻の粘膜が寒さ其他に對し、抵抗強くなるといふ目的で鼻に水を通す事が行はれて居ります、此れは成る程、水の刺戟をうくする爲鼻の粘膜は強くなりませうが併し一方には却て嫌ふ可き害を殘すものであります。

即ち鼻の粘膜は極く纖弱なものでありますから、水の樣な單純なものが通つたばかりでも、すぐ病的になりまして、急性鼻カタール、即ち一種の『鼻かせ』を起します、之れが度々繰り返さる時、鼻の粘膜は漸次厚くなりまして、遂に肥厚性鼻炎となり、鼻の閉塞を起すに至ります。

猶ほ又鼻より入りたる水を咽の方に出す時は、咽の方では知らず〳〵の中に嚥み込む運動が起ります、然る時は、前に御話した耳の方へ通つて居る歐氏管の口が開きますから、鼻の中の汚いものを洗つた水は、此管を通つて耳の中に達します、其結果はいふ迄もなく急性中耳炎となり、耳漏を發し、或は甚い時にも中耳カタールとなりまして、聽力を害すことになります。

でありますから、鼻から水を通す事は、風邪の豫防に宜しい樣でありますが、却て危險のある事で素人は決して行ふ可からざる事であります、唯ある病氣

の時には之を洗ふ事がありますが、醫者の監督の下にやらねばならぬのであります。

最後に鼻血の話を少しいたしませう、子供には屢々少しも原因なく、突然鼻血が出て來る事があります、鼻には痛みもなければ又何の感じもせず唯突然鼻汁が出てくると思ふて拭いて見て、其が血であるのに驚くものでありますそして、其出る血はなか〳〵止らないで、其量は意外に多くなることがあります鼻血の量は

鼻血の原因の如何によりて種々であります、小兒に屢ゝ起る鼻血は多く、頸から上に充血した時、卽ち逆上せた時に起るものでありまして、多くは鼻血の出る前に顏耳迄も赤くなり、眼も充血し鼻は少しつまり、時としては多少の頭痛を覺える事もあります、朝の食事前後に始まるものが多く、多くは肥つた、血の多さうな人に起るのであります、痩せた人にはあまりありません。

次に鼻血の原因となるものは鼻の負傷でありまして、鼻を挖つたとか、或は種々の鼻の中の手術をした後に出血する事があります、此れも多くは上半身の充血と相伴ふものであります。

鼻の中の種々の病氣も亦鼻血の原因となります、殊に鼻の障子に出來た鼻茸は度々出血する原因となります、又性の惡い腫物が鼻の中に出來た時は絶えず出血する事があります、殊に鼻の癌腫などでは一寸した事から出血し始めて、容易に止まりませんで甚しい貧血を起す事があります。

五六十歲の老人が屢々鼻血を出す樣な事があつたならば、注意せねばならぬのでありまして、此れは鼻の病氣でなく、却て全身の病氣の爲めに出るものが多いから油斷がなりません、卽ち老人の鼻血は、やがては命を奪ひ去る恐るべき腎臟病の爲めである事がありますから、なる可く鼻科醫及内科醫の診察を受く可きものであります。

其外鼻血の原因となる全身病は澤山ありまして、或

は之れが原因で死に至る様な恐る可きものもあります血友病といふ病氣では鼻血が止らないで其爲め貧血を起し死ぬ事があります、肝臟病心臟病などにも度々鼻血を起します。

又婦人には月經が閉止して、其の代りに、毎月今迄月經のありし時分に、鼻血が起る事があります。

斯様に鼻血の原因は色々ありますからして、一様に鼻血が出たからといふて、之れを止めるばかりが能ではありません、同時に其の原因を窮めて、根本的に治療せねばなりません、殊に老人の腎臟病或は心臟病等によりて起る鼻血は大に注意せねばならぬのであります。

鼻血の療治

其物は至つて簡單なものでありまして應急療法として醫者の來る迄は綿か軟かな紙にて兩方の鼻に栓をなし、蓐の上に靜かに仰臥して顏の上に氷をあげて冷しておきます、大抵は之れ丈けで出血は止りますが猶は再發の恐れありますから必ず專門醫の療治を受く可きものであります。

毎日習慣的に鼻血の出る様な人は出血する間は靜かに寢て居るは勿論でありますが、一方には通じをよくし、運動に注意する事も忘れてはなりません、便通が惡るい時はカスカラサクラダ錠といふ藥を四五粒位服用すれば、丁度よい便通があります。

のぼせ性の人、多血性の人はなるべく室内の空氣を新鮮にし、淡白な食物を食する様にし、酒、煙草は大に有害でありますからさけねばなりません。

腎臟病、肝臟病、心臟病等があつて其の爲めに出血するものならば之れは其の方の治療をせねば鼻血を止めても或は眼に或は耳に出血して、大なる害を釀す事があります。

（完）

美容法（承前）

第五、形と艶

形と艶、斯様に題を改めましたが、此事に就ては既

にこれ迄の所でも時々話が出ましたし、又これから後に至てお話しなければならぬ、事柄もありますから、此章に於ては只その補として一二の注意を申上げて置くに過ぎません。顔の形は、これは天の生せる所で、容易に改ることは出來ない、又妄に變ふべきものでもありませんが、美容法に於ては、多少これに就ても工夫しなければなりますまい。例へば頬の削けて居るのに對してはマッサージを應用することが出來ますが、これは別に章を設けてお話致す考ですから、此處には略すことゝします。次に鼻の形は隨分色々ありまして、美容上大關係あることでありますが、これは近來種々の方法を以て、可なり能く鼻の格好を直すことが出來ます、即ちパラフインの注射法で、鼻の皮膚の下に蠟を入れて適當な鼻の形に細工するのであります。これは單に鼻の形ばかりでなく、顔の醜い襞や皺までも直す爲にも應用されまして、なか〳〵良效を奏し、又能く何時までも保つと云ふことであります。

痘痕や其他の瘢痕にさへもパラフインの注射を試みられますが、皮膚が其下の方と固く癒著して居る場合には困難で、とても善い結果を得られません。兎に角パラフインの注射其他の手術に依て餘程鼻の形を好くすることが出來ますが、往々害の有ることもありますから、特別に醜い鼻でもなければ、折角生れ付いた親讓の鼻を、むざと改造すべきものではありますまい、多くの場合にはマッサージも可なり效能があるのであります。尚ほ此等の事に就ては、本誌第二百四十七號から鼻の話と云ふ題で詳細のお話が連載されて居りますから、それに讓りまして、次には目の形であります。

目も小さい眼を大きくすることが出來ないでもありません。尤も通常目の大きい、小さいと云ふのは、眼球全體の大小ではない、只眼裂即ち目の裂目の大小に依て大きくも小さくも見えるのですから、眼瞼の病氣の爲に目尻の癒著したものなどは、之を切離せば宜いのです。但し美容的の手術は、容易なやう

で案外六ケ敷いから、思ふ樣な好成績を得ないこともあります。又トラホームなどの結果眼瞼の形が醜くなつたのは、手術に依て思の外好くなりますし、一重瞼を二重瞼にすることも出來、上り目を下り目に、又下り目を上り目にすることも出來ますが、グル／＼廻つて猫の目と云ふ至ては、これは恐らく眼球振盪症と云ふ病氣で容易に治癒することは出來ません。

口の格好は之を直すこと困難です。尤も兎脣の如きは、其程度に依ては、生まれると間もなく手術すれば、餘り目立たぬ樣に癒ほすことが出來ます。又複脣と云ふて、通常の紅い脣に以ていつて、も一つ脣の粘膜が膨れ出して居るものがありますが、これは手術に依て善く癒ほすことが出來ます。其他の方法は困難で且つ結果が思はしくありませんから、申上る迄もなからうと思ひます。

耳の大きい、小さい。立つて居る、壓されて居ると云ふのも亦容貌に關係致します。耳朶の大きいのは手術に依て小さくすることが出來ます。立つて居る、即ち耳の頭から餘り離れ過ぎて居るのも癒ほすことが出來ます、併しこれは實用上には無論何の障碍もないことで、容貌上に於ても、其人の氣にする程目立つて美容を損するものではありません。大きな凸凹した耳の附いて居る顏と、大きな立離れた耳の著いて居る頭は、之を治はして、後に、果して前よりも好く見えるかどうかと云ふに、これは一寸問題で、なか／＼前以て判定することが六ケ敷い。離れて居る耳の如きは、無論癒ほした方が好いと思はれますが、案外希望に反する結果を見ることがあるのであります。概して耳の頭に密著して、所謂壓されて居るよりは、寧ろ起つて居る方が見好いのです。

頸の所は、美容上、それ程には大事でありません、隨分醜い女でも頸だけはなか／＼奇麗な人もあります。併し日本の婦人は西洋とは違つて、前襟は緩く合はせるのですから、殆ど鎖骨の邊迄も見え、後襟は首の著根までも露はしますから、特別に氣を付け

て化粧もしなければなりますまい。

頸に醜い皺の出來ますのは、頭の姿勢の惡いのが第一の原因であります、頭と全體の姿勢を善くしますには、常に、頭を高く前に起し、胸を張り腹を引緊めるやうにしなければなりません。頸の美ならんことを欲すれば、宜しく下の如き方法を行ふべきであります。第一僅かに頸を後方に屈し、肩を垂れて後方に引き、規則正しく深吸氣を行ふこと。第二胸部のマッサージを行ふこと。第三には、時々頭を強く曲げ、次に強く後方に伸ばし、伸ばした姿勢に於て、左右に遠く回はすこと。

それから餘り人の氣を付けぬことでありますが、鎖骨の上下の窩、これが著しく陷凹して居る人があります。尤もこれは衣服で隱れますけれども、病氣の爲のことがあり、又胸骨と鎖骨の附き具合でさう云ふこともあります。これは胸部のマッサージと、前に述べた深呼吸法を行ふべきであります。幾分の效があります。今日の婦人、特に上流の人には、肩の美事に發育して居る人が甚だ稀であります。就中其の肩から頸、胸、背中への移行が圓滿に出來て居らぬ。肩の具合が善くないと、從つて頭の姿勢が惡くなり、上體の姿勢が一般に壞れます。それで全身の姿勢は、肩の筋肉の發育如何に依ることが頗る大なるものであります。大原女の姿勢は能く人の言ふ所でありますが、印度にも矢張これと同樣に、頭の上に重い物を載せて商賣をして居る賤女があるさうでその頭と身體の姿勢の立派なこと、頸と肩と胸の形の美なることは、皆人の感歎する所で、印度の貴婦人や、歐洲婦人も之に對しては、殆ど顏色なしと作ふ有樣なさうであります。又セルビヤの女王ナタリーは、歐羅巴婦人中に於ても雙なき美人として人の知る所でありますが、女王は每日一時間づゝ御頭の上に水甕を戴くことを勉められたと仰せられたさうであります。これも特に右の證明として擧げることが出來ます。併し何でも頭の上に重いものを載せて歩けば、それで以て姿が好くなるとは申されません、

無論斯様な商賣をして居る婦人にも、至て不格好なものもありますから、その生れつきにも由りますけれども、兎に角美貌を保つには、右の如き心得が必要と存じます。

身體の格好に就いて、西洋婦人の最も氣にするのは胸であります。何うかして胸を膨らし度いと勉める。これは、貴賤上下を問はず、頗る熱心で、日本の婦人方には可笑いやうに思はれるだらうと考へます。それで種々の丸藥や、其他の祕傳藥などがありまして、實に滑稽な位です。これは古今東西、俗人の希望を當にして、金儲の爲に、愚にもつかぬ藥などを賣るは何國も同様で、實に善くない事でありますが、斯様な事に欺かるゝは、又實に慨はしい話であります。それで私は特に此事を申上げて置き度いのです。左様に身體を變化させる藥などは、決して在るもので無いのです。醫者は如何なる藥でも知て居ると云ふやうな迷信を持てはなりません。況して無學文盲で、たゞ慾ばかりの俗人が、どうして醫學者も知らぬやうな、そんな妙藥を發見して祕し隱して置くことが出來たのでせう。西洋婦人の如く胸を膨らす名法を索むることはありますまいが、若い娘子などが難儀して溜め得た金を、御臀を小さくする妙藥などに浪費するに至ては、實に氣の毒の至であります。これは徒言でない、實際此種類の事は常に見受けることで、特に美容法に關する範圍に多いから、殊更こゝに御注意致して置くのであります。

次に艶とは何を云ふかと申しますに、つまり次の三要素が好く調和した所をいふのでありませう。即ち第一に、皮膚全體の榮養狀態で、血液及び組織液の含み方に依る所の硬軟竝びにその分泌、特に脂肪の分泌量。第二には皮膚色。第三に身體表面の形狀これであります。脂肪が多いとか、夏日斑だとか、皺だとか云ふやうな缺點は、それだけの缺點であつて、別に艶そのものには關係が無いのであります。扨て右の三要素が如何様に調和しなければならぬかと申しますと、これは一々細敍することが六ケ敷い。け

れども先づ何人もかう考へなければならぬ。少々脂ぎつた顔は、白よりも寧ろ淺黑い方が善い。白い皮膚は、粗糙なるよりも滑な方が善い。粗糙な皮膚は、柔いよりも厚い方が善いと云ふ風に考なければなりますまい。若し賢女ありて、厚い、粗糙な皮膚は、とても艶などゝ云ふものは無いと云ふならば、厚い粗い皮膚も矢張艶はあると答へることが出來る。但し通常稱する所の肌理の細かい柔かな艶ではないが、此の顔、此の婦に似合はしい艶、恐らくは他の何れの艶よりも適當な艶を持て居ると申すことが出來やうと思ひます。先づ婦人が理想的の艶として居るのは、蒼白い、肌理の目立たない、柔かな皮膚で、淡薔薇色或は櫻色に透き通る樣なものでありませうが、これは甚だ稀なことで、何れもさうは參りません。各々皮膚の性質が有つて、それに一二の他の適當な要素が加はれば、それで始めて美しい艶が出來ると云ふ譯であります。それで私はかういふ艶になり度いとか、あゝいふ艶が好いとか云ふ希望は、無意義なことで、殆ど達することの出來ない望であります。誰でも先づ自分持前の艶で滿足し、或は明きらめて、其上で攝生して、出來るだけ美しい、その人品に似合はしい艶を作るより外に仕方がないのです。

艶は皮膚の狀態よりも、寧ろ全身の狀態に關係することが多いので、例へば結核のやうな衰憊性の病氣、心配、氣苦勞、又皮脂漏の如き特別の性質のものは、皮膚の性質如何よりも、艶の上には治し難い所のものであります、一般に身體は鍛練と保養を程善く行ふことに依て、安穩に爽快に感ずることが出來るのですから、顔の艶とても同じく此の二つの力が程善く作用して、始めて滿足なることを得べきものであります。

其の皮膚を練ると云ふ方については、冷水、特に可成冷い軟い水例へば雨水或は一旦煮沸した水が最も適當である。皮膚を勞はると云ふ爲には、扁桃油と麥粉を混ぜたものなどを用うるが最も宜しいので

あります。

艶化粧の爲には西洋人は通常液性のグリセリン石鹼で洗ひますが、これは僅かに皮膚をしなやかにしますけれども、グリセリン石鹼と稱するものゝ中には固形のものもありまして、これは效能が少ない、且つ全く似而非ものもありますから注意しなければなりません。

夏日斑とか痤瘡とか、皮脂漏などある人には時として二%半の酸化ナトロン石鹼が用ひられますが、此等のものに對しては、既に前に略ぼ述べましたから、別に茲には申ません。顏帕は、日本婦人は用ひませんけれども、これ亦艶を勞はる上に多少の效があります。但し冬は害がある。面帕の色は頗る大切なもので、褐色のものが最も宜しい。褐色が嫌ならば、赤、黄、稀には白も善いが青と黑は決して用ひぬやうにしなければなりません。

第二の保護法としては、普通色々の粉が用ひられますけれども、これは寧ろ用ひぬ方が良い、其理由は、別に化粧品の所に至てお話致します。常に用ひて良いのは化粧用のクリームです。其製法は、これ又後にお話致しませうが、之を用うるには、何時でも顏を洗つた後に、淸潔になつた皮膚に塗けなければなりません、それも極少々、殆ど分からぬ程づゝつけるのであります。而して塗けた後で、其の餘分な所は、絹の布で以て拭き取るのです。

顏を洗つた後、未だ皮膚の濕つてる時に新鮮な空氣にあたることは禁物ですが、かういふ場合にクリームを用ひると良い。其他風や寒さに對して害を防ぎます。これは脂強い顏、皮脂漏の人でも用ひて差支ありません、但しさういふ人は一方に於て屢〻洗面して、且つ前にお話したやうにアルコー劑で拭いて、その不潔になり易い餘計な皮脂を去ることを怠つてはならぬのです。皮膚の過敏な人であれば、晩に面を洗て、其後でクリームを擦込み、翌朝は只乾燥的洗滌を行ふ、例へば皮脂漏性の皮膚の人であれば、晩には石鹼で洗つて、それからクリームを擦込み朝

には一%のサリチール酸酒精で拭くのが宜しい。尙ほクリームには他の藥品を混ぜることも出來ます、例へば烈しい日光に對して用心しやうと思へば一%の硫酸キニーネを加へ、或は紅色をつけやうと思へば〇・五%のカルタミンを混ずると云ふやうな譯であります。皮脂漏性の皮膚には、之に一乃至二%の硫黄或は〇・五%の純レゾルチンを加伍したるものを用ひて良い。レゾルチンは又甚しく顏面の皮膚の過敏な人には、其皮膚を強くする爲に用ひらるゝこともあります。然し此等の藥品を加へたものは、其場合に依りますが、兎に角長く持續して用うることは宜しくないので、レゾルチンなどの如きも、往往反對の結果を來すことがあります。

熱蒸氣を顏面に應用することは、問題であるが、嘗て申述たこともある通り餘り賞讃が出來ない、先づ止めた方が宜しい。只時として用ひても良い方法は顏に捏粉を塗る方法で、一時顏の皮膚をしなやかに、艶々しく、滑らかにする效があります。それで例へば舞踏とか夜會とかいふ場合には、その一日二日前の夜から用ひるので、既に古く羅馬の婦人に依て持て囃された方法であります。これは何でもない、自分で造ることが出來るもので、その最も好で用ひられたのは、豌豆粉と乳脂を取つた滓卽ち牛酪を取つた後に殘る牛乳とを捏り合はせたもので、之を顏に塗つて、その上に麻で作つた假面を被つて寢む、而して朝に洗ひ落すのであります。

西洋の藝人で、餘程の年になつても艶々した顏をして居るので評判された女が、自分の常に用ひ來つた方法として人に告げた所を聞くに次の様なものであります。

裸麥の麵包を製る酵母を一夜間顏面に塗けて、朝になつて之を洗ひ落し、それから次の如き混和液を顏に擦り込む。卽ち一個の卵白に、檸檬半分の汁、一食匙の「オー、ドウ、コロニユ」、一茶匙の食鹽。これは、此種の美容法の一例であります。

異常の艶に對しては、往々藥を極細かく、分らぬ様

に沈著させて矯正することもあります。これも晩には水と石鹼で顏を洗つて、朝には石鹼を用ひずに藥液で洗つて、扇いだり溫めたりせずに、五分乃至十分間もかゝつて、そのまゝ乾かし、それから水で以て只灑ぐやうに輕く洗ふのです。例へば面の赤くなる傾のある人は「カンフオラ、トリータ」溶液、卽ち一と水千の割合の溶液を用ひ、黃味を帶びて薄黑い皮脂漏性の皮膚の人は、四%の硼酸水を用うると云ふやうな風に、種々の藥品を應用し、又色々の方法も行はれますけれども、兎角危險になりますから、妄に書立てる譯にも參りません。何れの場合に應用しても差支のない方法と云へば先づマッサージでありませう。これは皮膚全體の新陳代謝の影響に依てその機能、性質をも恢復せしめるのです。その本來の艶を保つ爲には、全身の健康と云ふことが第一の要件ですから、健康ならずして美貌といふことは成り難い話であります。

（以下次號）

育兒

小兒の眼

人の眼は、生れると直ぐから斯樣な巧妙な働をするものではありません。お腹の中に於て十ケ月間に奇妙不可思議の發育を致しまして、完全な眼の形が出來上るのですが、其說明は餘り專門的になりまして複雜致しますから、いよ〳〵出來上つた初生兒の眼からお話致します。初生兒も眼の構造だけは略大人と同じであります。けれども其機能は腦の發達に伴ふて漸次發達するので、初の間は盲も同樣であります。尤も光線に對する感覺は、既に生後第一日でも僅に現はれますが、左の眼と右の眼の運動も不揃で何も視える譯ではありません。視ると云ふことは五感の內でも最も高等の官能でありまして、單に眼球

に物が映つたばかりで視えるものではなく、其の映つた物は、何處に在るか、如何なる大さのものであるか、何んな色であるか即ち何物であるかと云ふことを知るには、幾多の練習に練習を重ねて、精神の十分發育した上でなければ出來ないのであります。所で生れ立ての小兒の眼球は本來近視である、それが一年以上になると今度は反對に遠視の狀態になりそれから漸次普通の屈折狀態に成るのであります。生後六日乃至十一日位から適度の光線を好みますが、少し強い光線は羞明がります。第二ケ月に至りますと光あるものを見て喜び、八ケ月後になりますと、洋燈や蠟燭の明りを視て笑ひ、其方向に目を向けて悅ぶやうになります。色は第四週乃至第六週頃より注意を引き、第八十五六週に至て稍ゝ見別けを付けますが、能く區別するやうになるのは第百二十から百四十週も經つてからのことで、色の中でも黃と赤は、綠青よりも早く視分けを付けるやうであります。物の距離その形などに付ての觀念は、第十六乃至第十八月に至てもまだ覺束ないので、漸く二歲の終になつて略ぼ完成すると申すことであります。それから瞳孔は、大人に於ては眠る時に小さくなり、その睡眠が深くなるに從つて益ゝ小さくなります。それ故に鼾聲をして空寐をして居る時にも、靜に眼瞼を開いて見るに、瞳孔が小さくなつて居らぬならば、病氣は兎も角も健全な人であれば、其睡眠は虛假であると鑑定することが出來ます。但し危篤の病氣で、今迄小さかつた瞳孔が、急に大きくなれば、これは心臟痲痺に由て將に死なんとする時であります。それで眼は外界から知識を取入れる大事の門であり、又內から外を視る所の窓であり、且つ人を視ることは眸子より善きはなしなど申して、瞳孔の樣子に依て其人の精神狀態を讀むことが出來ると云ふ意味からして、瞳孔は精神の窓であると申しますが、只今お話致しましたやうに、人の死ぬる時には必ず其瞳孔が開く所よりして瞳孔は魂の窓であると云ふた人がある、誠に面白い醫學上の洒落であると思ふ。

これは小兒の瞳孔に就てお話する考で、大人の瞳孔を一寸引合に出したのですが、初生兒の瞳孔について觀察をして見ますと、これとは異つて、睡る時にも瞳孔は小さくなりません、その睡眠時に縮小致しますのは凡そ三個月頃よりで、大人の如く極度に縮小しますのは、生後一年以上になつてからであります。今度はこれと反對に、眠から醒めた時には、大人では瞳孔が急に大きくなります。それで急に目を醒した時は、その人の眼は只眼脂が著いて居るばかりでなく、又充血して居るばかりでなく、瞳孔が暫時開くので餘程異つて視える、自分で物を見ても變である、畢竟瞳孔が大きくなるからであります。それ故に朝起きるや否や直ちに東向の窓を開けたり、窓掛を去つたりするのは眼の爲に害があります。然るに初生兒に於きましては、此の作用も亦甚だ緩慢で、目を醒しても急に瞳孔の擴大することはありません、極めて、徐々に大きくなるのであります。つまり瞳孔の急に大きくなりますのは、主として精神感動に由るのでありますから、腦髓の反射機能が完全でなければ出來ない働であります。小兒の此作用が鈍いのは、その視神經も腦髓も未だ完備して居らぬから當前の譯であります。瞬目運動即ちマバタキも同じ理由で初生兒は極めて鈍いもので、大人なれば一寸眼の前に物が現れると忽ち瞬目を致しますが初生兒は眼の前に指を差附けても平氣で居ります。併し近頃或人の研究した所を聞きますのに、既に八個月以上になつても、目の前に物を差つけても瞬目をしないならば、これは豪傑ではない、寧ろ低能の兒と見て宜しいと云ふことであります。

以上は先づ通常の小兒の眼の機能についてお話をしたのですが、序に一寸申上げて置くことは、稀には、外から見ただけでは別に何等の變化も認められない所の、生來の盲があることであります。これは大抵視神經とか、網膜とか眼球內部の病氣でありまして、初の間は親も、氣が附かない。四個月、五個月も經つてから、他所の兒に較べると、どうも家の兒は笑

はない、少々調子が違つて居る、さう云へば、どうやら眼球の動かし方も變だと云ふので、眼科醫に事の序に診てもらつて、初めてこれは盲であることが分つて、非常に落膽失望するやうなこともよくあります、又白内障と云ふて、水晶體が濁つて光線が能く眼球の内まで透らない爲に盲になつて居るものもあります。此白内障即ちカタラクトと申す病氣は往々血統を引きまして、一家族に二人も三人も盲人が出來ることがあります。これは瞳孔が白く見えて、誰にでも病氣であることが分るのが多いのですが、併し小兒では一寸氣の附かぬ場合が往々あります。所が此のカタラクトと云ふ病氣は、手術に依て大概目明きになることが出來るので、生來の盲人が目明きになつたと云ふて、患者及其家族の喜は申すに及ばす、醫師も神の如く讃め立てられるのは、大抵此カタラクトと云ふ病氣であります。特に面白いことは、此病氣はその濁て居る水晶體が取れゝば兎も角も視えるのでありますから、時とすると幾年か盲人で暮したものが、自然にその溷濁が吸收されて、物が見えるやうになることもあり、或は強く頭を打つとか、其他怪我をした場合に偶然その濁つた水晶體が脱臼して、物が見えるやうになることなどもあるのであります。これは實際時々あることで、彼の有名な淨瑠璃にある壺坂寺靈驗記なども、あれが眞實とすれば恐らく右の場合を以て說明することが出來やうと思ひます。稍ゝ餘談に渡りましたが、初生兒にも往々これがありますから申上げた次第であります。

尙ほ小兒が近視、遠視、亂視と云ふやうな、眼の屈折機の異常に因て、屢ゝ頭痛を訴えるものであります。これに氣がつかずに、この子供は勉强が嫌ひで、書物さへ見れば頭痛がすると云ふと叱るやうなこともあり、又服藥をしたり、種々の療治をしても一向效がない。此時に適當の眼鏡を用ひて、始めて頭痛の全く去る場合もありますから、これまた御注意を願ひます。

家庭衛生

御正月

味はひ美はしきを飽くまで食ひて、面白く遊び暮すが正月なり。されど孔子も『飽くまで食ひ、暖かに衣て、逸居して教無きは、禽獸に近し』と仰せられたが

食ふて寢て牛にならばや桃の春　　蕪村

此芽出度き正月を、若き姫君達の、牛にも馬にもなり給はぬ樣、教え草にはあらぬ者から、思ひ出草のよしあし草、老のねざめの語り草に、いさゝか聞え參らせんと思ふ

（上）食物

一　若水

若水汲むといふは風情ある事なり。滿天の星一つ二つと消え行くが中に、參星の瞬く樣に殘りて、我持つ手桶にぞ映りたる。此水に嗽ぎし、此水に顏淸むれば、新しき生命の、五體に滿ちて湧き來る樣にこそおもはゆれ。東の豐坂登りに、紅き初日拜みて、家に入ればやがて屠蘇祝ひ、雜煮打たうふるなり。今は都の家々は水道なれば、若水汲む人の姿を見ず。湯して洗ふは、驕れる而已の惡しきにあらぬ共、餘りに冷なるは又手にも顏にも害ありと知るべし。

二　雜煮

屠蘇一獻、御神酒一杯二杯は、年若きにも益多し。血の循行を良くし、消化を助け、寒さの料峭をも凌ぎつべし。若き姫達の薄紅梅の頰したるは、美はしからぬ姿かは。

我未だ幼かりし頃、老の里人の教へける樣『昔し西方佛國の、十萬億土の天竺の國に、香象てふ恐ろしき獸住みけり、此獸人を損ひ、五穀を荒す事、數ありける程、人々之を獵り得て、御世泰平の祝とて、年の初めは煮てぞくひける。此風俗の佛道と共に、

皇國に入り來たりけるが、象の肉得ん由緣無かりしまゝ、餅食を角に切りて、なぞらへてざうに（象煮）とは呼びたりける。』云々

說の不審は今云はず。數多くたうぶる者から、世の人の傳ふる如く、雜煮は消化あしき者ならず。消化やゝあしき澱粉の、蒸籠にて蒸し、杵もてつく程に、半ばは消化易き化合物に變ずれば、麵類、食ぱん、飯よりも、却りて速に消化すとも、云はゞ云ふべし。唯餘り細に嚙みなされず、消化液の觸るゝ所大さの割に狹くして、又打食ふ量の多ければ、長く腹ふくるゝ因由ともなるなり、故にもちひ多く喰ぶるには、大根おろし添ふるこそよけれ。

大根おろしには、「チアスターゼ」と云ふ者ありて、此者澱粉を「デキストリン」とし、「デキストリン」を砂糖になし、砂糖はやがて腸管より、血潮の中に吸はるゝなり。大凡胃腸の消化と云ふも、同樣の變化に依る者なれば、大根おろしは消化を助くるものとも呼びつべく、凡て澱粉性、植物性の食物を量多く召す時に、打添へて效ある者と思ふべし、更科の蕎麥、鳶の音のとろゝなど、常におろし添ふは道理宜し。

三　七草

せり、なづな、ごぎやう、はこべら、佛の座、すゞな、すずしろ、之ぞ七草。

薺はしやみせん草なり、又ぺん〳〵草とも呼ぶ。

妹か垣根三味線草の花さきぬ　蕪村

御形は母子草。

佛の座はたびらこ、夷人は相思花と名け、今の世の皇國人は、譯して忘れな草と、申すとぞ。

鈴菜は蕪。

鈴代は大根。

新らしき野菜は殊に養生に宜し、月も年も打たえて、之たべぬ人は、敗血病とて恐ろしき病にかゝるといふ。その上報效義會に入りて、千島の果に越年せし人、近くは旅順の寨を守りし人、多く此病に罹りにき。南極とやらん、草もなく木もあらず、見渡す目

路遥かに、氷計りの邦に行く人、野菜の貯足りけるや、否や。

されば七草粥は好ましき名なれど、事去り暦改まりて今の世の初春は、何處の野邊にか若菜つまん。

明日からは若菜つまんとしめし野に
昨日も今日も雪はふりつゝ。

四　御藏開き、豆粥

十一日は鏡餅割りて、しるこ認めて打興じ、十五日は餅日とて小豆がゆに餅加へて參るなり、初春の快樂も今日盡るに、祝へや祝へとてたうぶれば、智惠の內侍は十あまり六つ食し召し、和歌も小將讀安は、はたち餘り重ね上げられけるぞゆゝしきや。

凡そ餅も數しげければ腹くちきに、猶豆こそは消化あしき者なれ。そが滋養は少きにあらね共、胃に入り腸を過ぎて、やがて竅より出る程、血潮の內に吸はれて、吾人のやしないとならんは、げに多からぬ計りぞかし。

五　節分

追儺は古は年の內なりき。今は年明けて、程すぎて鬼を追ふ者から、師走の晦日、大晦日には、猶去りあえぬ鬼の爲に、なやまさるゝ人多しと聞く。

鬼は追ふぞよき、厄は拂ふぞよき煎豆は食ふもよし、食はぬもよし。

（下）正月の遊び

長からぬ春日に、腹鼓打ちてたぶるもの、ごまめ、數の子、昆布巻の類、何も極めて消化あしからぬはなし。まゝさる孌少なき者、餅、みかん、きんかんの品々も、量過ぐるを習慣とすれば、桐火鉢により、置炬燵に伏せりては、己が身損ふ原となるべし。かくてぞ種々の遊びは、興多く益あるわざとはなりぬなり。

一、歌留多

百人首を歌の心淫がはしと云ふ人あり。我は否と思ふ。

見せばやなを島の蜑の袖だにも
沾れにぞぬれし色は變らじ。

春の夜の夢計りなる手枕に
かひなく立たん名こそ惜しけれ。

之等の歌の心を解き得ん計り、年もたけ、學も進みぬる人には、關雎の篇も、百人首も、露いやしき隠あらじ。之等の歌を解き得ぬ人、何の暇、何の興ありてか、歌の心を推し考へんや。はた姿ばかり優に心かく計りやさしき歌を、百まで集め得べき人、今の時世に珍かなるべきをや。

かるたを字體一ならず、書き様の整はぬと難ずる人あり。かくては字體により、書き様によりて、そを使ひ馴れ覺えたる人は巧に、然らぬかるたには拙なりと云ふ。

こはかるたを職業とせんずる人の見なり。聞くに足らず、我は字體も趣あり、かきざまも變化に富みて、見る目安けきを、活字制のより萬段嬉しと思ふ。

騒々しきをいとふ人あり。さる人は遊ばぬに如かず又塵立つを論らふ人あり。

されど雪降る日、風荒ぶ頃、春宵短かきを苦しむ燈下のうたけは、外面に出でゝ興ずべきにも非ず。はた衛生の訓に依らんも、飽くまで食ひて徒らに座すると、其利其害如何にぞや。男、女打集ひ、打笑ひ、打ののしり、折々様は諸立に立さわぎてこそ、やがて腸胃も働き出し、消化も安く行はるゝなれ。況てや五人十人群がりし時、共に樂しみて一も愛えぬ遊び草の、外に求むべくもあらぬをや。

男、女の風教にあしと唱ふる人あり。

あしき節は固よりありなん、益ある節も尠きにはあらじ。こは後の長き日を待ちて、翁も人の敎を乞はんと思ふ。

二　凧、獨樂

かるたはやゝ大人びたる人の玩なり。幼きは自がじゝ男兒は凧、獨樂、女兒は羽根、手毬をものすべし。凧と羽根とは青空を仰ぐ遊びなり。獨樂とまりとは地を離れぬ遊びなり。

男の兒には紙鳶最よし。赤き色は人の心を浮立たしめ、青きは人を快活にす。千草の花、紅絹袖、緋

縮緬は赤き色なり。紅きガラス張りつめたる部屋の内に、日數へて入れ置かるゝ時、人は暴躁狂に罹るといふ。

御製　限りなくすみ渡りたる大空の

　　廣きをおのが心ともがな。

不見萬里路、只見萬里天、

蒼空の青きをのぞむ時は、自ら快活の心となり、蒼空の限りなきを眺むれば、自らいやのどに、いや廣らの心となりぬべし。況んや運動のゆるきにすぎず、烈しきにすぎず、四肢五體ほゞ一樣に動かせば、紙鳶はげに男兒の第一義の遊びなるべしや。

　　凧切れて白根が岳を行ゑ哉

獨樂は人と爭ふの心あり、身を損ふの危險あり、又空を仰ぎ、自ら深き呼吸する事、紙鳶の遊びに如かね共、猶廣き遊園のなき所は、止むに勝る遊びならん。

三　羽根、毬

凡そ仰ぐ時は呼吸深く、物言ふ時は呼吸深く、打笑ふ時、歌唱ふ時は更に深し、呼吸深ければ肺つよく、肺強ければ血潮新鮮しく、血潮新らしければ體健やかに、體健なれば心健なり。

羽根は、多くは空打仰ぎ、はた四肢五體の運動の、手毬にいさゝか増したれば、風暖かく日影うらゝかなる日は、殊に其益多かるべし。

手毬こそは可笑しき者なれ。

かの金毛獅子王の百獸もひれ伏すてふ雄猛びたけびて、海山鳴りとよもし馳けり行くに造化の翁、やさ呼び止めて、一つの花彩毬をぞ投げやりたる。今まで荒れにあれたる獅子王も、この手毬に戯れて、狂ひては遊び、遊びては狂ひ、日影の移るも知らぬ計り、獅子國亂旋の舞遊の曲の、其源こそ成りにける。

されば糸を丸め紙をまき、紙を纏きて毬となし、毬の上に綵糸をかゞりて、花の彩毬を作るまで、花の彩毬を手玉にとりて、花の御夏が手毬歌、花の旦に雨の宵に、心もあらず歌ふ程、世に優に艶なるは稀

なり。

四　雙六

幼稚きは雙六、いろはがるたに興を得べし。老ひたるは圍棊、將棊、之は外道の樂なり。破魔弓、春駒は今行はれず。竹馬は雪降りつむ國にてぞ興多き、氷すべりは都の春に玩び難し。花合せは害のみぞ多き。大凡勝負を專と爭ふ者は、己れ勝てば人悲しみ、人勝てば己悲しむ、且つは多く腦を勞し、體を安らけくあらしむれば、血潮の循環盛ならず、消化おろそかに、四肢冷えまさる。圍棊、將棊には、尙運籌の妙等に、勝負の外の樂みはあるらん。かるたは勝負を第一義とせず。されば勝負を第一義とする者は、なべて君子の爭に非ず。外道の樂と云ふべきなり。心ある人の親、人の子の心すべき事ならめ。

五　寶舟

邯鄲の盧生は、一睡の間に、五十年の榮華を夢みたりといふ。紅毛のある人は、一瞬の暇に、佛蘭西革命の全歴史を閲し、斷頭臺に己が頭斷たれぬと夢見て、目醒めければ太き枕、首の上に落ちてありしとぞ。

夢は五臟の勞れと云へ共、腦健かに體勞るれば、夢少なく、腦弱く、若くは痛く勞れて、體また虚弱なる人は夢多し、假ね、うたゝねの時夢多く。熟睡に入れば夢は消ゆるなり。されば夢多く、夢長く、夢明かなるは、熟睡短かき證にて、やがては腦弱く、體よわき證據なり。

さはれ春立つ二日の夕は、寶舟枕に布きて、おのも〳〵樂しき夢見て、起きて互に語る事、面白く、やさしき習慣と云ふべし。惡しきゆめ見たらん人、貘と云ふ獸に食べさせなん。

春の夜の夢の浮橋とだえして
嶺にわかるゝ横雲のそら。

屠蘇の效能

お正月には、どこの家でも屠蘇酒を飲んで祓福を祝ふといふ習慣であるが、これは何のためである、又、何の效能があるかは、甚だ明でないのである、それで今屠蘇のことを少し述べて見やうと思ふ。

屠蘇酒を飲む目的

昔から日本國中貴賤を問はず、貧富の別なく、お正月には必ず屠蘇酒を飲む習慣があるのを見れば、これには何か目的と意義とが含まれてゐるのである、即ち、正月元旦に屠蘇酒を飲むと、一切の時行疫癘を避け、又腫物、惡疾を禦ぐことが出來るといふのである、一言で云へば一年の計は元旦にありといふ諺に副ふて、一年中の健康を豫約して置かんが爲に、屠蘇酒を飲むのである、單に健康豫約、病魔驅除の目的には、屠蘇酒の外に色々の禁厭があるけれども、正月元旦に初春のお祝ひに兼ねて緣起の良いことを希ふといふ二方面の目的を具へて殊更屠蘇酒を用ゆるのである、それ故、元旦を除いては、どんな祝ひの場合にも、屠蘇酒を用ゆることはない、昔の書物の内に、屠蘇の目的、效能が書いてあるのを見ると、これが尚更よく明るのである。

合家飲之。不病瘟疾
飲屠蘇酒以祓瘟穢惡
服之變老爲兒變兇爲常
一人服之一家無病、一家飲之一里無恙
屠蘇酒治惡氣瘟疫辟邪風毒氣
一切の時行瘟疫をさけ及び腫物をのぞく
元旦に飲むときは一年の邪氣を避け命を延ばす

などと書いてあるが、まだこの外にも同樣な意味のことは、隨分澤山見えてゐる、併し何れも主な目的は、除疫と健康保全とである、一人これを飲めば一家に病無、一家これを飲めば一里が恙ないといふに至つては、屠蘇酒の效能も、實に靈妙至極である、如何にお禁厭であるといつても、全く根のないことは傳へられてはゐないのであろふ、然らば屠蘇とい

ふものには、實際どんな效能があるものであるか、一寸これを調べて見るのも、また一興である。

屠蘇の成分

屠蘇の造り方は、時代〳〵で違ひ、又各家〳〵で違つてゐるので、どれが眞のものか明らん、昔の醫書には屠蘇方といふものが、隨分澤山出てゐて、皆少し宛違つて居る、今その二三を掲げて見ると、次の如くである。

白朮　桔梗　蜀椒　桂心　大黃　烏頭　菝葜
防風（各二分）

白朮（二兩）　桔梗（二兩半）　烏頭　附子　細辛
（各一兩）

大黃　桔梗　蜀椒（各十五銖）　白朮　桂心
（各十八銖）　烏頭（六兩）　菝葜（十二銖）

大黃、桂心（各十五銖）　白朮、桔梗（各十五銖）
蜀椒（十銖）、防風、烏頭（各六銖）

赤朮、桂心（七銖五分）　防風（一兩）　菝葜（五銖）

蜀椒、桔梗、大黃（五銖）、烏頭（二銖五分）、赤小豆（十四枚）

大黃、桔梗、白朮、肉桂（各一兩八銖）、烏頭（六銖）、菝葜（一兩二銖）

まだこの外にも澤山種類があるけれども、皆同樣な生藥を用ゐてゐて、只配合の模樣と分量とが、少しづつ違つてゐるばかりである、そしてこれ等の處方を通覽して見ると、總て十種類許の草根木皮を色々に調合してゐるのである、今日使用されてゐる屠蘇でも、各藥舖で、夫々一家獨特の處方に依つて拵へてゐるのであるが、大體の成分は、右に述べた樣なものである、併し大抵は昔からの處方を其儘使用してゐるのであるから、今日の屠蘇も昔の屠蘇も、大した變りはないのである。

さて右に列べあげた色々の生藥は、今日、醫學上から云へば、どんな效能を持つてゐるものであるかといふことを調べて見れば、屠蘇酒の效能は、直ぐ明る譯である、併し今爰で右の品々に就て一々醫學上

の分析をして、その效用を述べるといふことは、甚だ繁雜であつて、而かもあまり興味のないのであるから、一一說明することは、また後日に讓るとして、只屠蘇といふ一つの合劑に成り立つた上で、これを酒に浸して置いて、その浸汁を飮めば、どんな效能があるかといふことだけを述べることに止めて置く
十種の生藥を取り調べて、その成績を考へ合せて見れば、屠蘇は萬能藥であつて同時に無能藥であるといふより外に、解釋の下し方はない、なぜかといふと、十種の生藥の内には、痲醉劑、鎭痛劑、鎭痙劑があるかと思ふと、驅蟲劑があり、健胃劑があり、また强壯劑がある、變質劑(亞砒酸と同じ效能)もあれば吐劑、下劑、發汗劑などがある、これ等の藥が皆夫々著しい效能を顯はした日には、恐らく世界中屠蘇位完全な理想的の萬能藥は他にないのである、昔、西洋では「パナケイア」と云つて、萬病に驗く藥があつたといふことであるが、屠蘇は千萬病位には、慥に驗くのである、併し藥といふものは、夫々一定の分量があつて、如何に良い藥でも、その分量に達しない位の少量を用ゐたのでは、決して效驗はないのである、ここが屠蘇の無能藥と云はれる理由である、屠蘇のためには誠に氣の毒な次第であるが、折角の良藥もその分量が甚だ少いために、鎭痛藥は這入つてゐても、鎭痛の效能は少しもなく、發汗劑が這入つてゐても、發汗の效能は少しもないのでのある、玉の盃底なきが如しとは、こんなことを云ふのであろふか。
別に屠蘇に恨があつて、屠蘇の惡口を敲く譯ではないけれども、右申すやうに、屠蘇には別段これといふ程の效能のない許りではなく、却て害になることがある。
「江戸より藥師來り、この鄕に家かりて住みけるが、去年の暮に知音の所々へ屠蘇くばりせしに、其藥毒に犯されて、元日の朝悉くなやみてうせたる人多ければ……」(齊藤信庵、傍廂)
「加藤佐渡守の庖人常に少陽藥を好みしが、古方の

屠蘇を製して、天明三年癸卯正月二日、これを溫めて同役共に飮ませしに、暫時に舌縮り、腹腸痛苦に悶絕して、兩人とも死せり、その方を見るに中に烏頭あり、烏頭の毒に中りしにや」(安齋隨筆)などの記錄がある、この他にも調べて見れば、まだあることならんと思われる、この烏頭の毒に中りしならんといふのは、實際そうとも推察されるのである、烏頭といふものは、猛毒の藥であつて、今日「アコニチーン」といふ藥と同樣の效能がある、鎭痛、麻醉等の作用を持つてゐるものである、これが酒に久しく浸されたために、酒の內に溶け出して猛毒を發するに至つたのである、附子といふ藥も烏頭と同樣に猛毒藥である、無病息災、長命禧福を計るために屠蘇を飮んで、元旦早々佛樣に化けて了ふといふのは、實に氣の利かぬ事で、甚だ間の惡るいことである、こんなことが、度々あつたために、後世に至つては、この烏頭と附子とを除いて、危險のないやうな屠蘇を拵へたのである、それ故實の所今日の屠蘇には、右のやうな猛毒藥は、混ぜてないのである、それ故屠蘇の爲に生命に危險を起すやうなことはまづないと云つて宜いのである、併し屠蘇を飮んで病を避け、命を引き伸ばすことが出來ると思ふのは大きな間違いである。



質疑

問・或人硫化加里を湯に入れて入浴して居りますがこれは身體にどんな效あるもので御座いませう、たゞ溫を保つばかりのものでせうか、誠に御手數恐入りますが、何卒誌上にて御示敎いたゞき度伏して御願申上ます。

山形縣　會員

答・硫化カリウムは水銀や鉛の慢性中毒、リヨーマチス、黴毒、其他の皮膚病に浴湯劑として用うる

ことがあります。

問● アカギレの療治の一番よい方法を御敎示願上候、是非今月の雜誌上に御示被下度奉存候。

府下　某　女

答● 凍傷のことに就ては、既に前號の家庭衞生欄に凍傷の豫防として詳細に述べてありますが、御覽になりましたか、一番良い方法と云ふ問には困りますが、兎に角其部を清潔にし、皮膚を軟かにし血液の循環を善くするのが第一等の療法です、清潔にして其處に軟膏類を塗けますが、只のワゼリン、又はラノリなどをつけて置ても治癒ります。

雜報



○石黑記念牌

石黑男爵がナイチンゲル石黑紀念牌と云ふものを作て日本赤十字社に寄贈されたことは既に報じた所である、皇后陛下に於かせられても太く此舉を御嘉賞あらせられ、過般赤十字社行啓の砌り、右紀念牌の一個を御持歸り遊ばされたる由に漏承はれるが、今回は同社看護婦監督にて、萬國看護婦會副會頭たる萩原たけ子及び同副監督鈴置けい子の兩名は、審査を經ずしてこれを贈與され、尚今後は、同社の看護婦にて勤續二年以上操行廉潔のものを選拔し、更に審査會議の上、三月下旬看護婦生徒卒業式の際にこれを贈與する筈である。

○本邦固有の玩具

三越呉服店の兒童用品研究會にては、本年獨逸國ドレスデンに開設される萬國衞生博覽會に出品する爲に、同會の新案に係る玩具九點、雛人形等の外に、我國固有の玩具六十八點を取揃へたが、其の重なものは、錦繪、武者繪、千代紙、凧、獨樂、面、竹馬、不倒翁、達磨、張子、虎、雙六、水中花、線香花火、おしやぶり、鳩ぽつぽ、豆鐵砲、太鼓、あね樣

毬、お手玉、きしやご、はぢき猿、春駒、でん〳〵太鼓、風車、大張子、飯事道具、歌留多、箱庭道具、飛んで來い、ずぼんぼ、竹返し等で、別にその遊び方を示す爲めに、子供の室內及室外遊戲の繪を額面にして二枚添へ、尙ほ斯波工學博士が考案された竹製の乳母車をも出品するとのことである。

○肺結核死亡數

最近の統計によれば、明治三十二年から四十一年迄の十個年間に、肺結核の爲に死亡したるものが、三府一道四十三縣を通じて六十八萬三千九百七十七人ある、卽ち一年平均六萬八千三百十八人の割合となる、その死亡數の最多いのは東京府で一年平均六千二百七十五人、その次は大阪府で四千二百六十八人、次は兵庫縣の三千二百三十人、それから愛知縣の二千五百八十六人、京都、新潟、廣島と順次これに踵き、その最も少いのは宮崎縣であるが、それでも尙ほ四百十八人ある、我邦の肺結核死亡は年と共に增加し行て、更に減少する景色がない。

○動物の食費

上野動物園に飼はれて居る鳥獸共の食料は、どんなものかと聞いて見るに、なか〳〵贅澤なものも居る。第一に獅子は獸の王と云はるゝだけに、その膳立も贅澤なもので、每日三食に、牛肉一貫三百匁、四日目每に鷄肉四百匁、一日の賄料が金一圓四十錢也と云ふ、虎は稍これよりも少いが、馬肉が好物とあつて、而かも一日分を一度に喰べてしまふ。象は又體が大きいだけに、穀類や甘藷が主食で、間食には藁を喰べて居るが、其量を聞くと、驚く勿れ甘藷を十貫目、藁を十貫目、それに砂糖が好きで每日黑砂糖を六十匁程嘗めるから、一日の食料が二圓六七十錢になるさうだ。次に熊公は、豆腐粕と飴を四分六にして、それに甘藷と云ふ一切精進料理で、一日一食その價は十錢もかゝらぬ。所が北極熊は甚だ贅澤で、食パンを常食にして、副食物には兎肉、馬肉、魚肉などを食ふので一圓許になる。猿は愛嬌者のことゝて貰物が多いから、甘藷と人參で日に二錢位で

すむ。駱駝は、フスマ、燕麥、引麥と乾草二貫目で一日五十五錢。鶏は鮹十一二錢。駝鳥は、日に二食、食パン四斤、キャベージ一貫三百匁。エミウと火喰鳥は各甘藷三百匁位。鰐は鮹を日に十錢。蜥蜴は雀と馬肉を一週に一度三十錢程かゝるさうである。

○有害染髪藥

近頃白髪染、赤髪直しの目的にて坊間に販賣して居る染髪劑の内には、頗る有害なものを含んで居るとのことである、それはパラフエニーレンヂアミンと云ふもので、石炭テール色素の副産物として出來るものである、西洋ではこれを以て毛皮や羽毛を染色するに應用するが、その職工や職員は、餘程注意しても屢〻害を受けると云ふ、然るにこれは、黒く染色して且つ光澤を與へ、又使用法も簡便で、一寸位洗つても擦つても剝げないから、日本婦人の染髪料さしては、最も適當に思はれるが、これが爲に濕疹、眼病、喘息、胃腸の障碍を來し、人に依ては頭も顔も腫れて髮の脱落ることもあり、又久しく續けて用うる時は、黒い髮も反て赤くなり、且つ毛の質が弱くなつて切れるやうになる、今その筋の調査に依ると、市中に販賣して居る染髪劑には、殆どこれを含まぬものは無い位で、その取締法の考究中であるとのこと。

○東京府下の屠獸數

昨年一月より十月迄に東京府にて屠つた獸畜の數は牛が二萬二千三百八十五頭、馬が七千五百七十二頭、羊が九十九頭、豚が三萬二千百三十九頭で、これを合計すれば六萬二千百九十五頭となる、されば一ヶ年には數十萬の獸畜が屠られる譯である。

○死體檢査數

其筋の調査によれば、昨年の一月から十月迄に警視廳の檢疫委員の行なつた死體檢案數は一萬四百五十三件で、一日の平均は三十四・三八件の割合であつたと云ふことである。

○水道布設地

内務省の調査によれば、我邦で目下水道の布設され

てある所は、左の三十個市町村に過ぎない。
東京市、函館區、小樽區、岩見澤町、京都市、大阪市、堺市、横濱市、横須賀市、神戸市、長崎市、佐世保市、竹澤村、神浦村、小濱町、新潟市、高崎市、水戸市、名古屋市、熱海町、甲府市、大津市、古川町、鹽釜町、郡山町、古森町、秋田市、桃澤村、飯塚村、岡山市、廣島市、下ノ關市、池田町、門司市

廣告

○婦人衞生會新潟支會

新潟支會は去る六日午後一時より當市女子高等小學校に於て、當支會及び當市婦人敎育會、帝國婦人協會の三會聯合の上、新年會を開催す、出席者約百名、最初高田せん子三會を代表し開會の辭を陳べ次に來賓福原先生の祝辭あり、餘興として浪花節遊戲等あり非常の盛會なりき。

○本誌次號育兒欄豫告

醫學士唐澤光德先生が、婦人衞生會特別贊成員として、嘗て本誌育兒欄に執筆せられた事は讀者諸姉の記憶せらるゝ所でせうが、今回獨逸國より歸朝されましたを幸ひ小兒科の學說も昔とは異り從つて育兒法も餘程變はつて居るから、一には以前のお話の訂正增補として更に本誌來月號よりの育兒欄は主として先生の執筆を煩はすことゝなりました。
尙ほ其他の欄には藥學士醫學士高橋學而先生が大に力を添へらるゝことゝなりました。

私立大日本婦人衞生會

○本會入會者

○石橋はや子紹介
●北米ワシントン州シャトル市ワシントン街七〇九　通常會員　別府さわ子
○岡田美壽子紹介
●　通常會員　石神八重子

○瀨川さわ子紹介

●四谷區麴町一ノ二一　通常會員　黒田こと子

○事務所申込

●神田區今川小路二ノ十四　通常會員　三好初乃子

●牛込區若松町百五十　通常會員　小西せん子

○莊司氏紹介

●神田區西小川町二ノ五　通常會員　阿部さだ子

●神田區西小川町五　通常會員　鈴木百子

○事務所申込

●山口縣立高等女學校寄宿舍　通常會員　德富ふじ子

●赤坂區青山南町六ノ二　通常會員　神石てう子

○高崎支會入會者

○三橋ひろ子紹介

●　通常會員　鈴木つな子

○新潟支會入會者

○吉村きよ子紹介

●　特別會員　蒲原かの子

○山形支會入會者

○西山玉子紹介

●　特別會員　關口より子

○奈良村きく子紹介

●　通常會員　細川さだ子

○佐柳千代子紹介

●　特別會員　久保清子

●　特別會員　岸本鐵子

○西山玉子紹介

●　特別會員　水谷美津子

○轉居

●小石川區小日向水道端二ノ四三へ　田中須磨子

●臺灣大目降糖業試驗所へ　三宅喜代子

●千葉縣市川町字根本三二三七へ　横井ひで子

●府下大久保村西大久保四二二へ　北島多一

●兵庫縣赤穂町へ　加藤雛子

●府下千駄谷町五七九へ　青戸さく子

●府下中野町大字中野字桃園三三三〇へ　戸塚纖子

新案特許一〇三六二號 衛生的なる改良かもじ發賣



本品の特長

一、根元にコロップを裝置せるにより從來式のもの軟らかなり

二、皮膚を摩擦する事少きゆゑ頭のはげる憂なし

三、頭痛癖ある婦人にも用ひて爽快を覺えしむ

四、二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髮の傳染病を媒介する憂なし

◉丸髷 金十五錢より 金七十五錢迄
◉島田髷 金三十錢より 金壹圓五十錢迄
◉銀杏髷 金二十錢より 金六十錢迄
◉送料 各八錢

◉諸かもじ製造販賣

東京市神田區豐島町十七番地
【振替貯金口座一八一八八番】

田中金三郎

◉小賣特約店

京橋南傳馬町 大西白牡丹｜本郷三丁目 乘康｜淺草駒形 百助｜淺草駒形 紅勘｜神田區須田町 三井屋｜日本橋通二丁 柳屋

特約店

神田區橋本町三丁目 勝本治助
日本橋區田所町廿一 山三商店
同 横山町一丁目 安井治太郎
同 馬喰町三丁目 萬新商店

日本橋區若松町 松葉屋紋太郎
同 横山町一丁目 天野源七
同 馬喰町三丁目 阿部錠
同 橘町四丁目角 島村商店

日本橋馬喰町二丁目 飛川商店
同 横山町二丁目 江川小間物店
同 横山町二丁目 森本支店

外全國到る所の小間物店にあり

タカヂアスターゼ

▲高峰博士發見特許製法に由る消化新薬▲强度一定効力永久不變
▲類似模造品あり「タカ」の冠字御注意▲各地有名藥舗にあり
▲日英博覽會化學品部に多數のヂアスターゼ類出品せられたるも審査の結果獨り本劑の優良なるを賞賛し特に發明者の功勞を表彰せんが爲め我高峰博士に最高賞牌たる**名譽大賞**を贈與せり本社は我醫界に本劑の優秀絶倫を證明せられたる此實蹟を報告し得るを大なる光榮とす。

▲説明書郵呈す

發賣元　東京市日本橋區室町三丁目　三共合資會社

特許新藥 ユーキリン

大學教授博士鈴木梅太郎氏發見の特許製法に由り製造せられたる本劑は吸收性同化性の**完全なる有機性燐化合物**にして其効用は總ての營養増進に任り結核性患者、食慾不振、病後恢復期に用ゆべく殊に**神經衰弱**患者の營養劑として卓効あり

發賣元　東京市日本橋區室町三丁目　三共合資會社

謹告

一、本會新年會は、來る二十八日(第四土曜日)、午後一時より神田區一ツ橋通り女子職業學校に於て擧行致し、當日は講談(眞龍齋貞水)其他の餘興有之候筈。

一、來二月の例會は、本會役員會の決議に依り、都合上休會致事と和成候間此段御通知申上候

一月

私立大日本婦人衞生會

婦人衞生雜誌代價及廣告料

代價

一冊　定價金貳拾錢　郵税壹錢

三冊(三ヶ月分)　前金郵税共　金四拾五錢

十二冊(一ヶ年分)　前金郵税共　金壹圓八拾錢

廣告料

一頁　六十二行　一行二十三字

一頁　金三圓　半頁　一圓五拾錢

○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行十五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ケ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

明治四十三年一月十七日印刷
明治四十三年一月二十日發行

編輯者兼發行者　東京市本郷區駒込追分町三十番地　韮司秋次郎

印刷者　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　今井甚太郎

印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍

發行所　東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地　私立大日本婦人衞生會事務所

賣捌所

東京本郷區龍岡町　吐鳳堂
東京市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鈴屋町　巨明堂
同市本郷區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店
京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本郷區本富士町　盛春堂
名古屋市本町三丁目　丸善書店

歌書刊行會校

上等和紙印刷

優美製本

和歌八代集 完成

全拾六册

正價九圓九拾錢

小包税貳拾四錢

古今集二册 後撰集二册 拾遺集二册 後拾遺集二册 井上博士校訂 金葉詞花集二册 千載集二册 新古今集四册

各集分賣

歌仙家集 完成

全六册

正價參圓六拾錢

郵税拾貳錢

本會顧問

文學博士 萩野由之君
鎌田正夫君
醫學博士 井上通泰君
伯爵 柳原義光君
子爵 相良頼紹君
下田歌子女史
子爵 渡邊千秋君
賀古鶴所君
大口鯛二君
柳田國男君
佐々木信綱君
醫學博士 森林太郎君

目下第二期事業トシテ

御歌所寄人井上通泰博士監督ノ下ニ

近藤芳樹翁遺著 萬葉集註疏
中山美石翁遺著 後撰集新抄
藤井高尚翁遺著 古今集新釋

を毎月貳册を刊行し既に十册を出したり
是皆故人が心血を濺ぎて述作せられたる**名著**なれば斯道學者の益を得ること極めて多かるべし
刊行會は其完結を誓ふ

●刊行會趣意書規定及見本ハ往復はがきニテ申込マルレバ直ニ附郵ス

東京市本郷區龍岡町 振替東京三〇五八番

發賣所 電話下谷 四〇七九 一六七二 聚精堂